

第2章 企業で働く人のボランティアや社会貢献活動への参加と希望

本章では、ボランティアや社会貢献活動への参加経験（Q9）と、将来の参加希望（Q23）についてみていく。参加経験のある人には、参加した団体や分野、活動期間、活動で得られた事や活動で役立った事等についてきいている。将来、活動参加したいと思っている人には、活動したいと思っている分野や時期などを聞いている。

第1節 ボランティアや社会貢献活動の経験

ボランティアや社会貢献活動の経験がある人の割合は、「モニター調査」では41.2%、「企業調査」では61.5%と、企業調査の方が、20ポイント程度割合が高くなっている¹（第2-1表）。ボランティアや社会貢献活動を経験した時期については、「小学生」（モニター調査；13.1%、企業：20.9%）、「中学・高校」（モニター調査；13.1%、企業調査：20.8%）、「大学生」（モニター調査；10.7%、企業調査；18.3%）と、社会人になる前に経験した人の割合は10～20%で、企業調査の割合が7～8ポイント程度高くなっている。「社会人になってある」割合は、モニター調査は23.5%であるのに対し、企業調査は41.8%と18ポイントも高い。一般的な企業に比べ、「企業調査」対象5社が、ボランティアや社会貢献活動を推奨している現状が表れている。

第2-1表 ボランティアや社会貢献活動経験の割合（複数回答）

【モニター調査】		(%)					
		総数	小学生の頃 にある	中学・高校 の頃にある	大学生の頃 にある	社会人にな ってある	経験はない
全体		3831	13.1	13.1	10.7	23.5	58.8
性別	男性	2034	11.4	10.9	9.4	25.1	60.2
	女性	1797	14.9	15.5	12.2	21.6	57.3
年齢	35歳未満	1110	23.0	22.8	18.0	14.3	52.0
	35～44歳	1000	12.3	12.9	9.4	22.0	62.5
	45～54歳	1000	8.2	7.2	6.4	27.1	63.4
	55歳以上	721	5.5	6.4	7.2	34.7	58.0
子供の有無	有り	1434	13.6	12.9	11.2	29.1	54.1
	無し	2397	12.7	13.1	10.4	20.2	61.7

¹ 「経験はない」が排他の選択肢となるので、逆割合が「経験あり」となる。

【企業調査】

(%)

		総数	小学生の頃 にある	中学・高校 の頃にある	大学生の頃 にある	社会人に なっている	経験はない
全体		11788	20.9	20.8	18.3	41.8	38.5
性別	男性	7577	20.1	18.7	16.9	40.6	40.9
	女性	4211	22.4	24.8	20.9	44.0	34.1
年齢	35歳未満	3278	35.4	36.5	30.8	26.2	33.0
	35～44歳	2763	21.4	21.2	19.3	42.2	39.4
	45～54歳	3867	14.5	12.7	11.7	51.4	39.9
	55歳以上	1880	8.5	9.6	8.7	48.5	44.0
子供の有無	有り	5512	17.7	16.4	15.2	49.6	37.1
	無し	6276	23.8	24.7	21.1	34.9	39.8

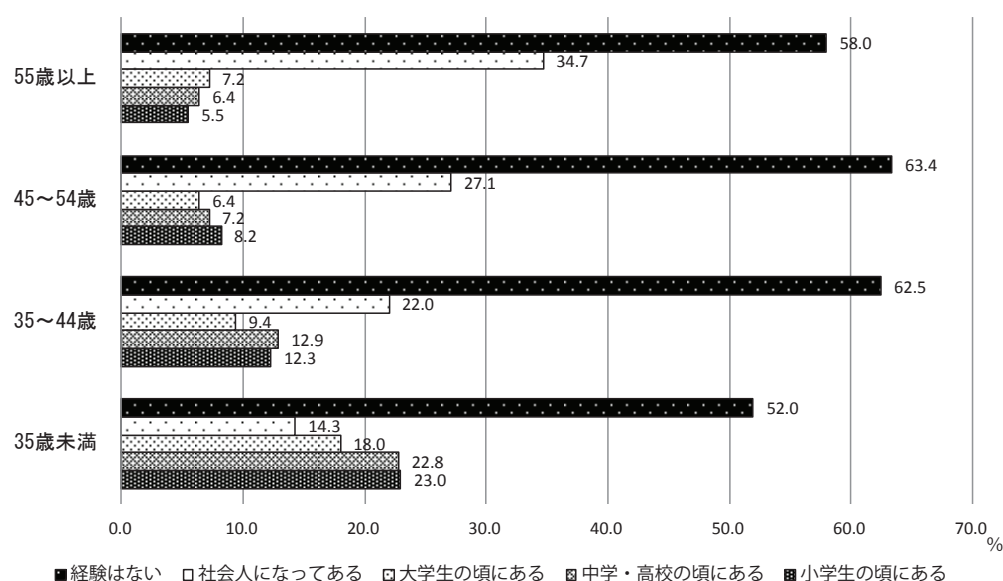
1. 個人属性との関係

個人属性（性別、年齢階層別、子供の有無別）とボランティアや社会貢献活動への参加の関係をみてみよう。女性の方が男性よりも割合が若干高い傾向にある。「子供の有無」については、「社会人になってある」の割合が「モニター調査」「企業調査」共に「（子供）有り」の割合が高くなる。社会人になって子供や育児関連で活動参加の機会が増えることが推測される。

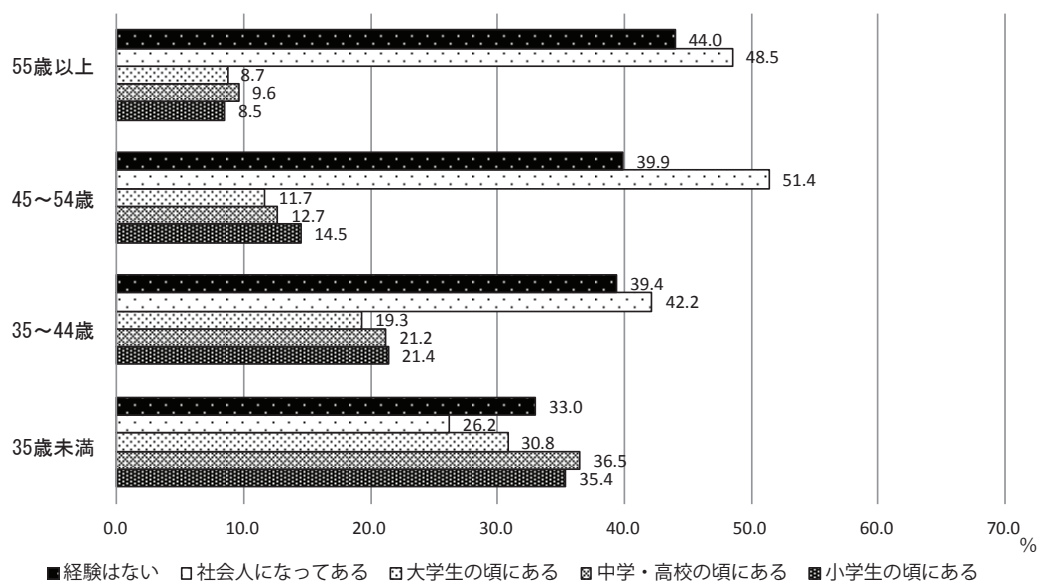
年齢階層別の割合については、特徴的であるため、第2-1図に示した。「モニター調査」と「企業調査」の両方とも、年齢の若い階層から順に「小学生」、「中・高校生」、「大学生」といった学生時代の活動経験の割合が高くなっている。企業調査では35歳未満の社員の3割以上がボランティアや社会貢献活動を経験している。一方で55歳以上では1割に満たない。

第2-1図 年齢階層別にみたボランティアや社会貢献活動経験の割合

モニター調査



企業調査



この約 20 年の間に、阪神・淡路大震災をはじめとする災害が日本各地で発生し、経済的にも不況が長引き、貧困や社会格差の問題が深刻になった。こういった社会を背景に、NPO やボランティアが一般化してきていることや、学校教育の現場でもボランティアや社会貢献活動が取組まれてきていることが、若年層での高い割合につながっていると考えられる。こういった取り組みは、現在 50 歳以上の社員が学生だった頃にはなかったはずで、35 歳未満の社員のボランティアや社会貢献活動に対する意識との世代間相違が大きいと予想される。

2. 最終学歴、年収との関係

第 2-2 表は、モニター調査から、最終学歴と世帯年収および本人年収と、ボランティアや社会貢献活動参加の関係をみている。最終学歴をみると、「中学・高等学校」38.6%、「短期大学、高等専門学校、各種学校」では 38.7%（「経験はない」の逆割合）、これに対して「大学・大学院」では 42.3%（同前）になっている。大きな差はないが、「大学・大学院」を最終学歴とする者の方が活動経験の割合は高いようである。

「世帯年収」「あなた自身の年収（本人年収）」についてみると、「世帯年収」の 2000 万円以上の階層で 46.6%（「経験はない」の逆割合）で活動経験の割合が比較的高くなっているが、それ以外はそれほど大きな差はみられない。比較的差がはっきり表れているのが、「社会人になってからある」割合で、「世帯年収」「本人年収」共に年収が高くなるほど割合が高くなる関係性がみられる。「本人年収」、「300 万円未満」での割合が 15.2%であるのに対し、「1000 万円以上」では 30.3%とおよそ倍の割合となっている。このことから、社会人になってからのボランティアや社会貢献活動の参加は、比較的富裕層である傾向がみえる。

第 2-2 表 最終学歴および年収別にみた、活動経験の割合

【モニター調査】		(%)					
		総数	小学生の頃 にある	中学・高校 の頃にある	大学生の頃 にある	社会人に なっている	経験はない
全体		3831	13.1	13.1	10.7	23.5	58.8
最終学歴	中学・高等学校	568	11.6	11.6	0.5	27.3	61.4
	短期大学、高等専門学校、 各種学校、専門学校	584	11.8	11.8	3.9	25.0	61.3
	大学・大学院	2679	13.6	13.6	14.3	22.4	57.7
世帯年収	400万円未満	460	19.1	16.3	13.7	17.4	59.1
	400～600万円未満	809	12.6	14.0	9.6	20.8	61.1
	600～800万円未満	771	13.5	13.1	8.2	22.2	60.1
	800～1,000万円未満	740	11.8	13.1	12.8	26.5	55.8
	1,000～1,500万円未満	768	11.3	10.8	9.8	27.6	58.3
	1,500～2,000万円未満	180	10.0	7.8	8.3	24.4	60.6
	2,000万円以上	103	13.6	16.5	20.4	28.2	53.4
あなた自身の年収 (本人年収)	300万円未満	474	19.6	18.4	11.4	15.2	57.6
	300～400万円未満	589	15.3	16.6	12.1	17.7	59.1
	400～600万円未満	1170	13.8	13.0	10.8	23.5	59.2
	600～800万円未満	729	11.0	10.7	9.7	25.1	60.5
	800～1,000万円未満	466	9.0	11.4	10.1	30.9	56.2
	1,000万円以上	403	8.2	7.9	10.2	30.3	58.8

3. 寄附や介護経験との関係

第 2-3 表は、寄附（昨年 1 年間の寄附の有無）や介護経験とボランティアや社会貢献活動の関係を示している。まず、寄附の有無についてみると、「（寄附）有り」でボランティアや社会貢献活動の経験がある割合は、59.0%（「経験はない」の逆割合；モニター調査）、対して「（寄附）無し」の割合は 35.3%と、15 ポイントの差がある。企業調査でも同様に、「（寄附）有り」が 69.3%（「経験はない」の逆割合）、「無し」が 56.6%（同前）と 10 ポイント以上、寄附をしたの方が、ボランティアや社会貢献活動の参加割合が高い。また、「社会人になつてある」の割合をみると、モニター調査では「（寄附）有り」40.3%に対し「（寄附）無し」は 18.3%と 20 ポイント以上低く、企業調査でも「（寄附）有り」53.0%に対し「（寄附）無し」が 35.4%と 17 ポイント低い。ボランティアや社会貢献活動は、自分の時間を寄附する行為でもあり、金銭的寄附と共通する部分は多い。ボランティアと寄附は補完的関係にあり、相乗効果があると考えられる。

介護経験の有無については、モニター調査では「（介護）有り」58.5%に対し「（介護）無し」37.2%と 20 ポイント以上、企業調査でも「（介護）有り」53.0%に対し「（寄附）無し」が 59.5%と 18 ポイントの差があり、介護経験をした（している）人の方がボランティアや社会貢献活動の参加割合が高い。ボランティアや社会貢献活動をする人は、自ら苦労した経験や周りから助けてもらった経験を、周りと共有し、恩返しとして還元していくという意識

を持ちやすい。介護や看護、育児といった生活の中で起こる経験やつながりから活動参加に発展していく可能性がみえる。

第 2-3 表 寄附や介護経験と活動経験の割合

(%)

		総数	小学生の頃 にある	中学・高校 の頃にある	大学生の頃 にある	社会人に なっている	経験はない
モニター調査	全体	3831	13.1	13.1	10.7	23.5	58.8
	有り	923	16.9	19.2	17.7	40.3	41.0
	寄附の有無						
	無し	2672	11.7	10.8	8.4	18.3	64.7
	わからない	236	13.1	14.8	9.7	16.5	62.3
	介護経験の有無						
企業調査	有り	716	16.8	18.7	18.0	36.6	41.5
	無し	3115	12.2	11.7	9.0	20.5	62.8
	全体	11788	20.9	20.8	18.3	41.8	38.5
	有り	4400	23.0	23.7	21.0	53.0	30.7
	寄附の有無						
	無し	6958	19.4	18.8	16.3	35.4	43.4
企業調査	わからない	430	24.2	25.3	23.5	30.2	40.0
	介護経験の有無						
	有り	2697	20.3	22.1	19.0	53.3	31.9
	無し	9091	21.1	20.5	18.1	38.4	40.5

4. 現在も活動を継続している人の割合

当調査では、ボランティア活動経験の有無を聞き、活動経験者に対し現在も活動をしているかを聞いている。

第 2-4 表をみると、ボランティア活動経験者はモニター調査では 41.2%、現在もボランティア活動をしている者の割合は全体（総数）の 9.8%となっている。企業調査では 13.0%と少し割合が高い。このことから、会社で働いている人のボランティア活動者比率はおよそ 1 割程度と推測される。

第 2-4 表 現在も活動を継続している人の割合

		総数	ボランティア活動経験者	現在もボランティア活動している者
モニター調査	n	3831	1577	377
	%	100.0	41.2	9.8
企業調査	n	11788	7249	1532
	%	100.0	61.5	13.0

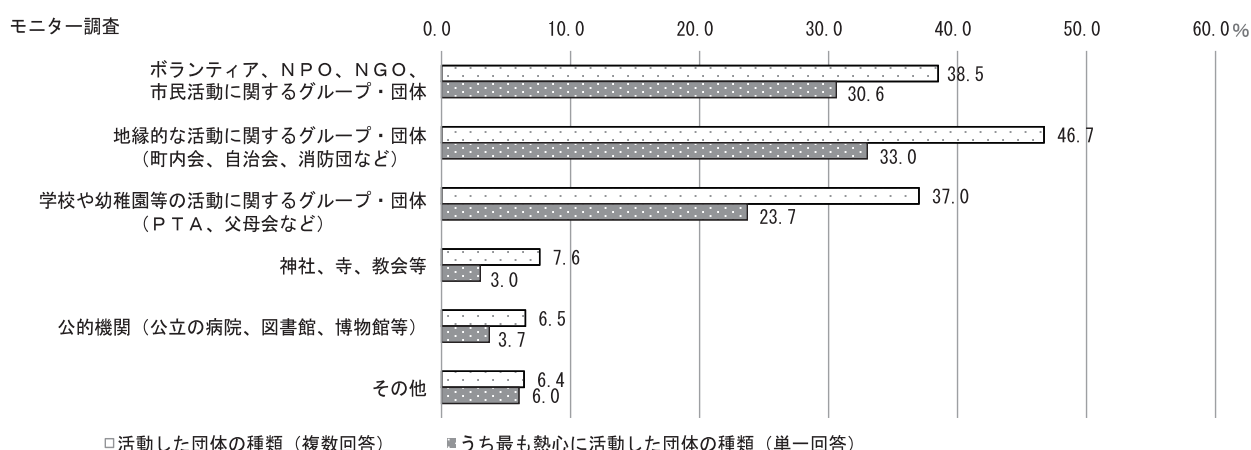
第2節 参加したボランティアや社会貢献活動の種類と内容

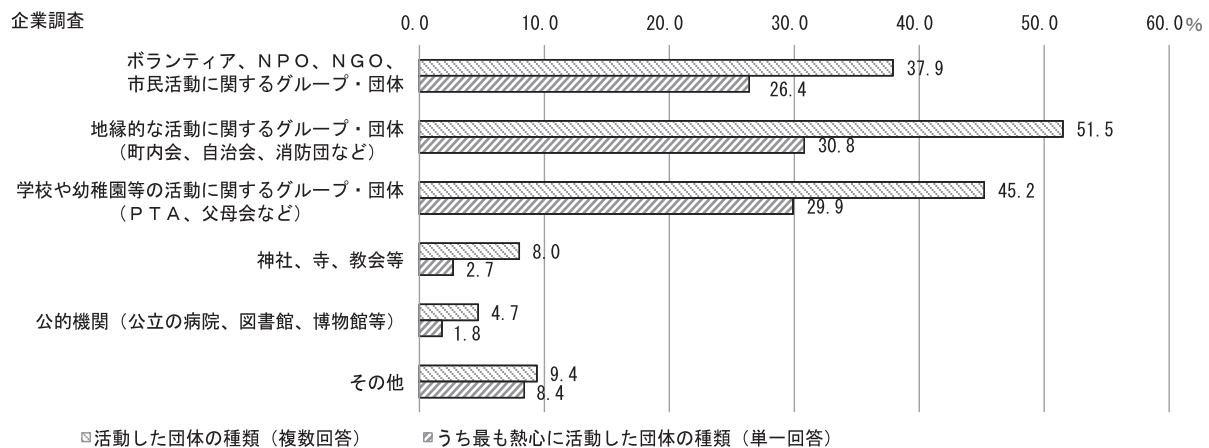
本調査では、ボランティアや社会貢献活動経験の有無と活動団体の種類を聞き、「有る」人に対しては、分岐設問で最も熱心に活動した内容に焦点を当てて聞いている。

1. 活動団体の種類

第2-2図は、活動した団体の種類と、そのうち最も熱心に活動した団体の割合を示している。前者が複数回答、後者は単一回答形式である。活動した団体の種類で最も割合が高かったのは「地縁的な活動に関するグループ・団体（以下、地縁団体）」（モニター調査；46.7%、企業調査；51.5%）となっている。「学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（以下、PTAや父母会などの団体）」（モニター調査；37.0%、企業調査；45.2%）も比較的高い割合を示している。これらは、旧来からある共益を目的とした団体であり、自身の住む地域や子供が通う学校にかかる活動に参加する。会員として参加義務がある場合もある。一方で、近年新しく存在感が増しているのは、「ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体（以下、NPO、ボランティア団体）」で、これらは分野を特化して活動しており、個人の自由意志で参加することが多い。図から特徴的にみられるのは、旧来型の団体に比べて、NPO、ボランティア団体では、活動した団体と最も熱心に活動した団体の割合の差が小さい。つまり、これまで活動した団体の中でも、最も熱心に活動した団体としてNPO、NGO、ボランティア団体を選択した人が多いことを示している。

第2-2図 活動した団体（複数回答）と最も熱心に活動した団体（単一回答）の種類





それでは、参加団体の種類によって、参加者の特徴はみられるのだろうか。第 2-5 表は、モニター調査から活動した団体の種類と個人属性との関係を見てみる。

これをみると、NPO、ボランティア団体と、旧来型の地縁団体や、PTA、父母会などの団体で活動する人とは、属性が異なることが見て取れる。NPO、ボランティア団体は、性別や年齢階層にあまり差がみられない。一方、地縁団体は男性、55 歳以上の割合が高く、PTA や父母会などの団体は 35 歳未満での割合が高い。子供の有無については、NPO、ボランティア団体では大きな差がないが、地縁団体や PTA や父母会などの団体は「子供有り」の参加割合が高くなっている。NPO、ボランティア団体では、最終学歴が「大学・大学院」の割合が高く、世帯年収や本人年収が高い階層で参加者割合が高くなっている。一方、地縁団体では「中学・高等学校」の割合が高く、年収の傾向はあまりなく、PTA や父母会などの団体では、むしろ本人年収が低い方に偏っている。これは活動年齢が比較的若いということが影響しているからと考えられる。また、NPO、ボランティア団体では、「1 年以上の海外滞在経験」が有る者についての割合が高いという特徴が見られる。

以上のことから、NPO、ボランティア団体で活動経験がある者は、高学歴、高収入である一方で、年齢や性別、家族構成などの影響が小さい。地域や家族構成によって影響を受ける活動ではなく、個人の意思による活動であることが大きいかもしれない。

第 2-5 表 活動した団体の種類と個人属性との関係（モニター調査）

モニター調査：Q9-1-1活動した団体の種類（複数回答）

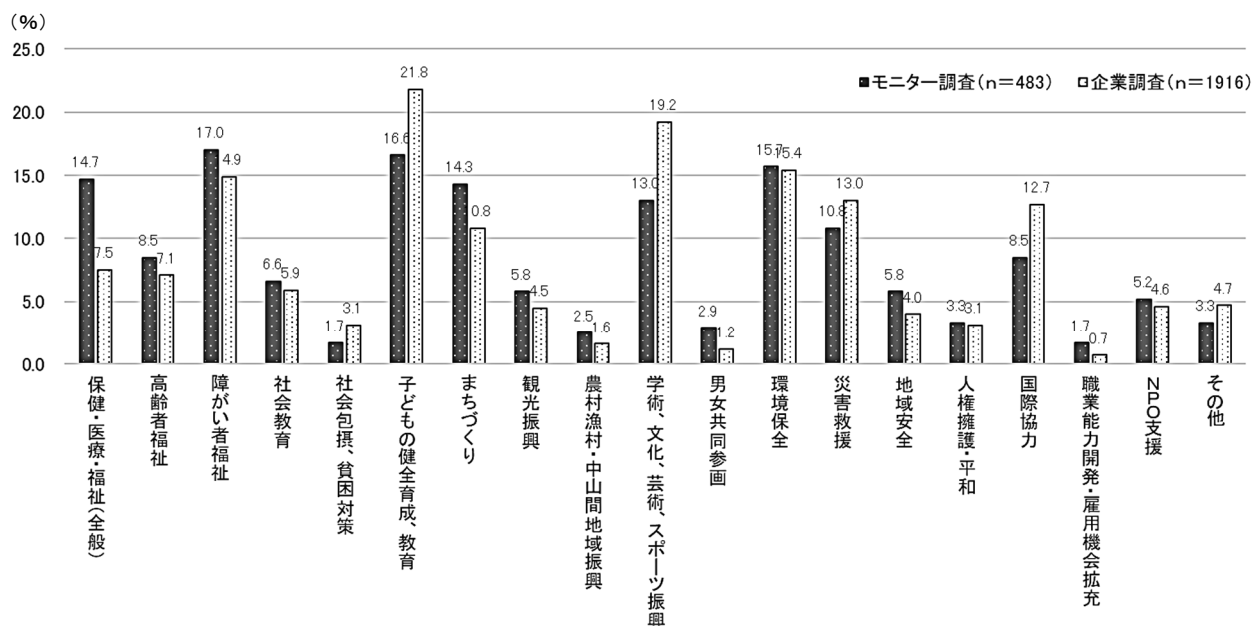
(%)

		総数	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	神社、寺、教会等	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	その他
全体		1577	38.5	46.7	37.0	7.6	6.5	6.4
性別	男性	809	36.6	51.2	36.6	8.0	6.1	6.2
	女性	768	40.5	42.1	37.4	7.2	6.9	6.6
年齢	35歳未満	533	37.3	44.5	43.9	5.6	7.3	4.3
	35～44歳	375	40.3	41.6	35.7	6.9	8.0	7.5
	45～54歳	366	41.3	47.8	31.7	8.7	5.5	6.8
	55歳以上	303	35.0	55.8	32.7	10.6	4.3	8.3
子供の有無	有り	658	36.0	51.2	47.4	7.4	5.0	5.3
	無し	919	40.3	43.5	29.5	7.7	7.5	7.2
最終学歴	中学・高等学校	219	30.1	59.4	39.7	10.5	2.3	6.8
	短期大学、高等専門学校、各種学校、専門学校	226	34.1	44.7	35.4	7.1	4.9	10.6
	大学・大学院	1132	41.0	44.7	36.7	7.2	7.6	5.5
世帯年収	400万円未満	188	39.9	42.0	35.1	10.6	5.3	4.3
	400～600万円未満	315	36.2	44.1	39.4	6.3	4.8	6.0
	600～800万円未満	308	38.6	45.5	34.1	9.1	4.5	6.5
	800～1,000万円未満	327	38.2	48.6	36.7	8.0	5.8	6.4
	1,000～1,500万円未満	320	36.6	51.6	40.0	5.0	9.1	7.5
	1,500～2,000万円未満	71	40.8	45.1	32.4	8.5	7.0	11.3
	2,000万円以上	48	58.3	47.9	35.4	8.3	20.8	2.1
あなた自身の年収 (本人年収)	300万円未満	201	28.9	48.3	42.3	9.0	5.5	4.0
	300～400万円未満	241	42.3	41.1	38.6	7.1	4.6	5.4
	400～600万円未満	477	41.1	44.0	37.3	7.8	5.0	6.5
	600～800万円未満	288	37.2	49.7	34.7	6.3	4.2	6.6
	800～1,000万円未満	204	34.8	48.0	35.3	8.8	12.3	9.8
	1,000万円以上	166	44.0	54.2	33.1	7.2	11.4	6.0
1年以上の海外滞在経験	有り	246	50.0	45.9	36.6	11.0	14.6	4.1
	無し	1331	36.4	46.9	37.0	7.0	5.0	6.8

2. 活動分野

本調査では、最も熱心に活動している（した）団体の種類について、「ボランティア、NPO、NGO、市民活動にするグループ・団体（以下、NPO、ボランティア団体）」と答えた者に対して、その活動分野を聞いている（第 2-3 図）。

第 2-3 図 最も熱心に活動した NP0、NGO、ボランティア団体の活動分野（複数回答）



モニター調査で割合が高い活動は「障がい者福祉」（17.0%）、「子どもの健全育成、教育」（16.0%）、「環境保全」（15.7%）、「保健・医療・福祉」（14.7%）で、一般的なボランティア人口が多い分野と類似している²。企業調査が、モニター調査に比べて特徴的なのは、「子どもの健全育成、教育」（21.8%）、「学術、文化、芸術、スポーツ振興」（19.2%）、「国際協力」（12.7%）が高く、「保健・医療・福祉」（14.7%）が低い。「国際協力」については、特に、海外との関係が深い A 社（総合商社）での活動割合が高く、その影響が大きいと考えられる（第 2-6 表）。

第 2-6 表 企業別にみた活動分野（1～3 位）

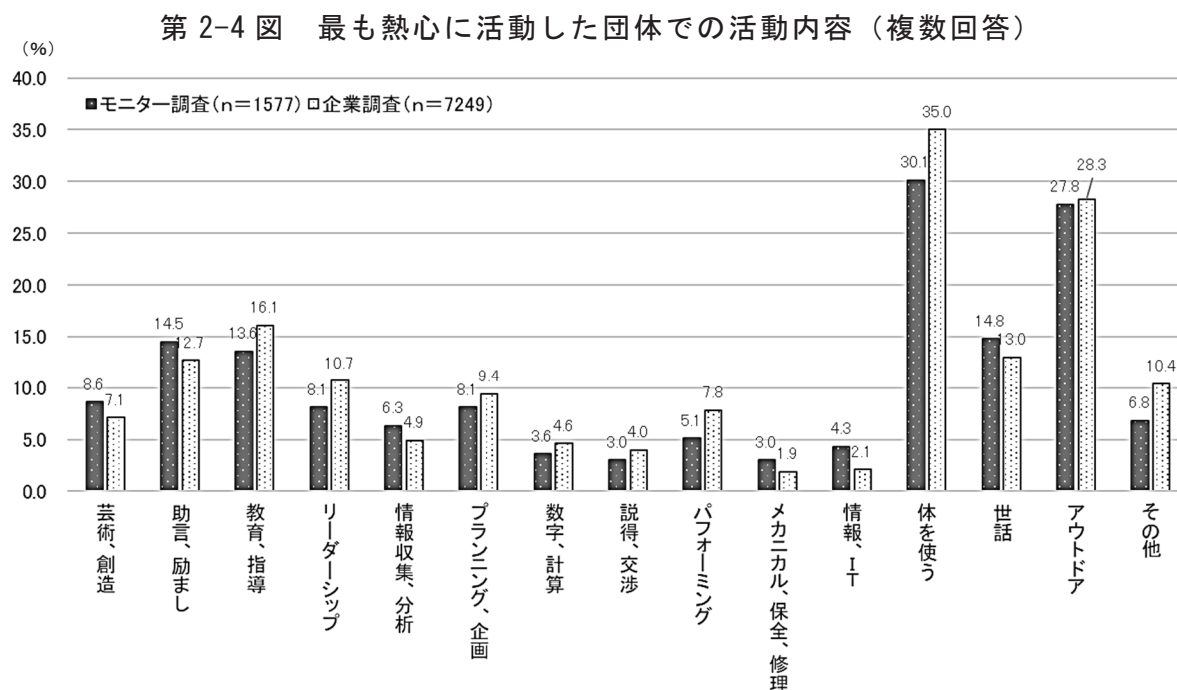
	1 位	2 位	3 位
A 社	災害救援 21.3%	国際協力 19.7%	子供の健全育成、教育 19.0%
B 社	子供の健全育成、教育 26.7%	学術、文化、芸術、スポーツ振興 21.0%	障がい者福祉 17.5%
C 社	環境保全 24.3%	学術、文化、芸術、スポーツ振興 19.0%	子供の健全育成、教育 17.6%
D 社	子供の健全育成、教育 22.9%	学術、文化、芸術、スポーツ振興 21.8%	災害救援 17.6%
E 社	子供の健全育成、教育 24.4%	学術、文化、芸術、スポーツ振興 20.6%	障がい者福祉、環境保全 16.5%

² 内閣府『市民の社会貢献活動に関する実態調査』（平成 28 年度）。

企業調査からは、企業の CSR や社会貢献活動に対する姿勢が、社員の活動内容にも表れている。1 位や 2 位の分野は、企業として活動している分野で、東日本大震災の被災地支援活動や、東京オリンピック、パラリンピックに向けたスポーツ支援活動、街や河川の清掃活動など、社内でボランティア活動に参加する社員を募り活動している。このように、企業の業種や取組みの方向性によって、企業の社会貢献活動に特徴が出てくると考えられる。

3. 活動内容

最も熱心に活動した団体について、その活動内容について聞いた（第 2-4 図）。モニター調査と企業調査で大きな差はなく、最も高かったのが「体を使う」（モニター調査；30.1%、企業調査；35.0%）、次に「アウトドア」（モニター調査；28.3%、企業調査；27.8%）であった。企業調査では、「教育、指導」（16.1%）がその次に高いが、2 位とはかなり差がある。この傾向は、企業別にみてもほとんど同じで、C 社のみ 3 位が「世話」（15.0%）になっているが（第 2-7 表）、これは C 社の女性比率が高いためと推測される。「教育、指導」は男性、「世話」は女性での割合が高くなる傾向がみられている（巻末附属統計表参照）。



第 2-7 表 企業別にみた活動内容（1～3 位）

	1 位	2 位	3 位
A社	体を使う 36.8%	アウトドア 22.8%	教育、指導 19.0%
B社	体を使う 35.4%	アウトドア 26.8%	教育、指導 17.2%
C社	体を使う 32.5%	アウトドア 31.8%	世話 15.0%
D社	体を使う 35.2%	アウトドア 29.7%	教育、指導 15.1%
E社	体を使う 37.1%	アウトドア 27.8%	教育、指導 18.0%

4. 活動期間と活動日数

最も熱心に活動した団体について、その活動期間と日数について聞いた。

第 2-8 表から活動期間についてみると、性別では、モニター調査も企業調査も大きな差はみられない。一方、年齢階層でみると、35 歳未満では「単発」の活動の割合が高く（モニター調査；47.5%、企業調査；45.1%）、55 歳以上ではいずれの調査でも 15%程度と低く、逆に活動期間が「5 年以上」の割合が高くなっている（モニター調査；33.0%、企業調査；25.6%）。45 歳以上になると、活動期間が 1 年以上の割合が半数を超えてくる。

活動した団体の種類によって、活動期間は異なるのだろうか。モニター調査、企業調査ともに「5 年以上」の長期間活動している傾向があるのは、「神社、寺、教会等」、「公的機関」は単発の割合が高い。企業調査では、地縁的な活動に関するグループや、学校や幼稚園等の活動に関するグループの活動期間が「1～3 年未満」での割合が高い。

第 2-8 表 活動期間

ベース：ボランティア経験者

(%)

		総数	単発（1回のみ）	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5年以上
モニター調査	全体	1577	35.4	16.0	22.0	8.6	18.1
性別	男性	809	31.4	15.8	21.3	9.3	22.2
	女性	768	39.6	16.1	22.8	7.8	13.7
年齢	35歳未満	533	47.5	17.3	20.5	7.3	7.5
	35～44歳	375	39.5	17.6	23.5	5.3	14.1
	45～54歳	366	30.6	14.8	21.3	8.2	25.1
	55歳以上	303	14.9	13.2	23.8	15.2	33.0
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	483	35.2	16.6	21.9	7.9	18.4
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	521	32.6	15.2	22.8	9.0	20.3
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	373	38.1	18.0	23.1	8.3	12.6
	神社、寺、教会等	47	23.4	14.9	21.3	8.5	31.9
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	58	43.1	17.2	19.0	10.3	10.3
	その他	95	42.1	9.5	15.8	9.5	23.2
企業調査	全体	7249	29.1	15.5	27.1	12.4	16.0
性別	男性	4475	29.0	15.2	26.6	12.6	16.6
	女性	2774	29.2	16.0	27.7	12.1	15.0
年齢	35歳未満	2197	45.1	18.9	20.8	8.1	7.2
	35～44歳	1673	29.2	17.9	27.3	12.8	12.8
	45～54歳	2326	20.0	12.3	31.3	14.1	22.3
	55歳以上	1053	15.3	11.5	30.6	17.0	25.6
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	1916	36.2	15.4	23.1	12.0	13.3
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	2235	26.5	16.6	30.2	11.5	15.1
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	2165	25.8	16.2	30.3	13.9	13.7
	神社、寺、教会等	197	14.7	12.2	18.8	13.7	40.6
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	129	35.7	27.1	22.5	7.8	7.0
	その他	607	31.0	7.6	19.8	11.7	30.0

第 2-9 表から活動頻度についてみると、「年間 1～7 日未満」の割合が、モニター調査、企業調査共に 5 割を超えている。両調査ともに年齢階層が上がると頻度も多くなる傾向がみえる。性別でみると、差は小さいが、女性よりも男性で活動頻度が多い方に分布する傾向があるようだ。

活動した団体の種類でみると、それほど大きな差はないが、「神社、寺、教会等」は比較的活動日数が多く、「公的機関」は少ない方の割合が高いようである。

第 2-9 表 活動日数

ベース：ボランティア経験者

(%)

		総数	年間 1 ～ 7 日未満	年間 7 ～ 1 5 日未満	年間 15 ～ 30 日未満 (月 1 ～ 2 回のイメー ジ)	年間 30 ～ 50 日未満 (月 2 回～ 週 1 回のイ メージ)	年間 50 ～ 100 日未 満 (週 1 回 ～ 週 2 回の イメージ)	年間 100 日以上 (週 2 回以上の イメージ)
モニター調査	全体	1577	56.9	17.8	13.3	6.8	3.2	1.9
性別	男性	809	53.5	20.1	12.7	7.8	3.7	2.1
	女性	768	60.4	15.4	13.9	5.9	2.7	1.7
年齢	35歳未満	533	64.2	15.8	10.7	6.0	2.1	1.3
	35～44歳	375	61.3	16.8	12.0	5.6	2.4	1.9
	45～54歳	366	54.6	17.2	16.1	6.3	3.0	2.7
	55歳以上	303	41.3	23.4	16.2	10.6	6.6	2.0
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	483	55.5	17.8	11.6	8.9	2.9	3.3
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	521	53.9	20.3	16.3	6.5	2.1	0.8
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	373	58.7	17.4	12.9	4.6	5.1	1.3
	神社、寺、教会等	47	51.1	17.0	17.0	8.5	6.4	0.0
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	58	65.5	8.6	10.3	8.6	0.0	6.9
	その他	95	70.5	11.6	7.4	5.3	4.2	1.1
企業調査	全体	7249	51.4	16.0	15.8	8.3	5.6	2.8
性別	男性	4475	50.5	16.2	15.7	8.4	6.3	2.8
	女性	2774	52.8	15.7	16.0	8.1	4.5	2.9
年齢	35歳未満	2197	65.6	12.4	10.3	5.2	3.9	2.5
	35～44歳	1673	54.5	14.3	14.6	8.1	5.6	2.9
	45～54歳	2326	43.3	18.4	19.0	9.8	7.0	2.5
	55歳以上	1053	34.5	21.3	22.0	11.6	6.6	4.1
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	1916	55.2	11.8	13.8	8.9	6.6	3.8
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	2235	50.7	20.4	18.0	6.4	3.1	1.4
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	2165	47.7	17.4	16.8	9.1	6.2	2.9
	神社、寺、教会等	197	42.1	19.3	18.3	8.6	8.6	3.0
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	129	55.0	12.4	16.3	10.9	3.1	2.3
	その他	607	57.5	8.2	9.6	10.2	9.4	5.1

第 3 節 ボランティアや社会貢献活動への参加のきっかけと周囲の影響

1. 活動参加のきっかけ

ボランティアや社会貢献活動の経験がある人はどのようなきっかけで始めたのだろうか。最も熱心に活動している団体について、そのきっかけを聞いている（第 2-10 表）。最も割合が大きいのは、「地域のつながりで誘われた」（モニター調査；21.4%、企業調査；24.5%）と「友人・知人から誘われた」（モニター調査；21.5%、企業調査；17.7%）であった。家族、友人・知人、職場や仕事、地域のつながりといった関係から誘われる割合は、モニター調査では 69.1%、企業調査では 66.6%と半数を超えている。このように周りから誘われて、ボランティアや社会貢献活動に参加している人が多いことがわかる。

第 2-10 表 活動参加のきっかけ

ベース：ボランティア経験者

(%)

		総数	自分で探した、偶然知った	家族から誘われた	友人・知人から誘われた	職場や仕事関係で誘われた	地域のつながりで誘われた	義務、義理、輪番等	その他
モニター調査 全体		1577	19.5	6.9	21.5	19.3	21.4	8.7	2.6
性別	男性	809	16.7	7.4	21.8	19.8	23.6	8.8	2.0
	女性	768	22.5	6.4	21.2	18.9	19.1	8.6	3.3
年齢	35歳未満	533	20.8	8.8	27.2	15.6	17.3	7.9	2.4
	35～44歳	375	23.2	5.3	21.1	21.6	18.4	8.3	2.1
	45～54歳	366	17.5	6.6	15.8	21.3	26.2	9.6	3.0
	55歳以上	303	15.2	5.9	18.8	20.8	26.7	9.6	3.0
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	483	35.4	7.2	24.4	21.7	6.8	2.7	1.7
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	521	11.9	6.5	20.2	14.6	36.5	9.2	1.2
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	373	10.7	6.2	20.6	15.3	26.3	17.4	3.5
	神社、寺、教会等	47	14.9	14.9	38.3	4.3	19.1	4.3	4.3
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	58	27.6	3.4	20.7	32.8	6.9	8.6	0.0
	その他	95	12.6	8.4	9.5	48.4	4.2	4.2	12.6
企業調査 全体		7249	13.2	8.5	17.7	15.9	24.5	14.7	5.4
性別	男性	4475	11.7	10.2	16.4	17.0	27.4	13.3	4.0
	女性	2774	15.7	5.8	19.8	14.2	19.9	17.1	7.6
年齢	35歳未満	2197	15.4	8.2	22.6	17.0	19.3	12.2	5.4
	35～44歳	1673	14.9	9.1	17.6	16.1	21.6	15.0	5.6
	45～54歳	2326	11.1	9.9	14.6	15.6	27.7	16.1	5.0
	55歳以上	1053	10.4	5.3	14.7	14.2	33.0	16.5	5.8
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	1916	28.5	8.0	25.7	23.0	7.5	2.7	4.6
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	2235	5.0	8.6	11.4	12.5	41.7	19.1	1.7
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	2165	6.5	7.1	17.4	9.0	28.2	24.5	7.2
	神社、寺、教会等	197	12.7	34.5	23.4	6.6	16.8	2.5	3.6
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	129	31.8	6.2	20.2	14.7	8.5	8.5	10.1
	その他	607	15.3	6.9	14.8	33.9	7.7	6.9	14.3

モニター調査、企業調査共通した傾向を挙げると、性別では、女性の方が「自分で探した、偶然知った」割合が高くなっている。男性は、「地域のつながりで誘われた」の割合が高い。年齢階層別にみると、「自分で探した、偶然知った」や「友人・知人から誘われた」は比較的若い層で多い。一方で「地域のつながりで誘われた」の割合は年齢が高くなると割合も高くなる。

活動した団体の種類でみると、「ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体」に参加した人は、「自分で探した、偶然知った」（モニター調査；35.4%、企業調査；28.5%）の割合が高い。また企業調査では、「職場や仕事関係で誘われた」（23.0%）や「友人、知人から誘われた」（25.7%）が高くなっている。「地縁的な活動に関するグループ・団体」は、「地域のつながりで誘われた」（モニター調査；36.5%、企業調査；41.7%）が高く、「学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体」は、「義務、義理、輪番等」（モニター調査；17.4%、企業調査；24.5%）と高い。「神社、寺、教会等」は、家族や友人、知人など、

身近な人から誘われている割合が高い。「公的機関」は、「自分で探した、偶然知った」（モニター調査；27.6%、企業調査；31.8%）や「職場や仕事関係で誘われた」（企業調査；32.8%）が高い。この傾向は「ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体」と似ている。一般的に会社でボランティアや社会貢献活動をしようとした場合、公的機関に寄ることが多いのかもしれない。企業調査の対象となった会社は、NPO やボランティア団体とのつながりが比較的であると想定されるため、「職場や仕事関係で誘われた」の割合が高くなっているとも考えられる。

2. 周囲からの影響

ボランティアや社会貢献活動に参加している（した）人や参加したいと思う人は、周囲からの影響が大きいと思われるが、身近で活動している人の影響はどのくらいあるのだろうか。（第 2-11 表）

第 2-11 表 身近に活動をしている人の影響

モニター調査		(%)			
	総数	ボランティア経験の有無		今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	
		有り	無し	思う	思わない
全体	3831	41.2	58.8	35.9	64.1
配偶者	279	73.8	26.2	63.4	36.6
配偶者以外の家族	220	66.4	33.6	63.6	36.4
家族以外の親類	84	77.4	22.6	71.4	28.6
友人	476	77.1	22.9	64.9	35.1
同じ職場の人	400	69.8	30.3	58.5	41.5
その他	10	80.0	20.0	60.0	40.0
誰もいない	2660	28.3	71.7	25.5	74.5

企業調査		(%)			
	総数	ボランティア経験の有無		今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	
		有り	無し	思う	思わない
全体	11788	61.5	38.5	59.0	41.0
配偶者	1495	83.3	16.7	75.6	24.4
配偶者以外の家族	1779	75.6	24.4	72.1	27.9
家族以外の親類	644	75.6	24.4	73.8	26.2
友人	3602	72.2	27.8	70.1	29.9
同じ職場の人	2514	66.9	33.1	67.0	33.0
その他	196	60.2	39.8	57.1	42.9
誰もいない	4159	45.3	54.7	43.8	56.2

モニター調査の全体でみると、ボランティア経験の有無の割合は、「有り」41.2%、「無し」58.8%、企業調査の全体では「有り」61.5%、「無し」38.5%である。一方、配偶者が活動している人の場合は、「有り」が73.8%（モニター調査）、83.3%（企業調査）と全体よりも20～30ポイントも高くなる。友人が活動している場合も77.1%（モニター調査）、72.2%（企業調査）と高く、その影響は大きい。他方、「誰もいない」と答えた人は、「有り」の割合が28.3%（モニター調査）、45.3%（企業調査）と大幅に低い。「同じ職場の人」に関しては、家族や親せき、友人といったより身近な存在よりも影響は小さいが、モニター調査では全体より20ポイント程度高くなっている。

今後の社会貢献活動への参加についても、活動経験の有無と似たような傾向がみられる。より身近な存在が活動している場合には、その影響からボランティアや社会貢献活動をしたと思うようである。逆に周りに活動している人が「誰もいない」と、活動につながりにくいこともわかる。同じ職場の人が活動しているだけでも、将来的に参加したいとする割合は8～20ポイントも上昇する。職場や仕事での関係も、活動につながる1つのきっかけとなる可能性がある。

ボランティアや社会貢献活動に参加するきっかけとして、周りからの影響や誘いの他に、自分自身が困った時に周りやNPO等の団体から助けてもらった経験を挙げる人がヒアリング調査では複数みられた。「助け合い」や「恩返し」といった動機が活動のきっかけとなっているのか。第2-12表は、NPO等に助けてもらったことがある経験がボランティアや社会貢献活動参加にどのくらい影響を与えているかをみている。

モニター調査、企業調査共に、「かなりある」「ある程度ある」としたグループは、約8割が、すでに活動経験があり、今後活動に参加したいとしている。これは全体の割合から30～40ポイントも高い。一方で「全くない」としたグループでは活動経験の割合は低く、今後の参加にも消極的であることがわかる。

第2-12表 NPO等に助けてもらったことがある経験の影響

モニター調査		(%)			
	総数	ボランティア経験の有無		今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	
		有り	無し	思う	思わない
全体	3831	41.2	58.8	35.9	64.1
かなりある	89	83.1	16.9	83.1	16.9
ある程度ある	258	80.6	19.4	76.4	23.6
どちらともいえない	640	51.6	48.4	41.3	58.8
あまりない	628	53.7	46.3	42.5	57.5
全くない	2216	28.3	71.7	25.9	74.1

企業調査		(%)			
	総数	ボランティア経験の有無		今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	
		有り	無し	思う	思わない
全体	11788	61.5	38.5	59.0	41.0
かなりある	183	94.5	5.5	86.3	13.7
ある程度ある	795	87.4	12.6	80.3	19.7
どちらともいえない	914	82.1	17.9	67.9	32.1
あまりない	2604	73.4	26.6	65.7	34.3
全くない	7292	51.0	49.0	52.5	47.5

第4節 ボランティアや社会貢献活動から得られたものと役立った能力

1. 活動から得られたもの

本調査では、ボランティアや社会貢献活動経験者に対し、活動から得られたもの9項目について「かなりあてはまる」～「全くあてはまらない」の5段階の順序尺度で聞いている。（第2-13表）

「あてはまる」（かなり+やや）は、企業調査の方がモニター調査よりも高い割合を示している。ただし、「あてはまる」とする割合が高い項目は共通しており、1位は「人の役に立ち、社会や地域に貢献できた」（モニター調査；69.0%、企業調査；86.0%）、2位は「他者と考えを共有・共感することができた」（モニター調査；52.3%、企業調査 66.5%）、3位は「新しい知識や技術、経験を得られた」（モニター調査；49.4%、企業調査 54.6%）となっている。興味深いのは、ボランティアや社会貢献活動で本来自分自身の時間を寄付（ギブ）する行為でありながら、（恐らく意図せず）新しい知識や技術、経験を得られることがあるとする割合が高いということである。

男女別にみて両調査共に特徴がある項目は、男性は「健康や体力の増進につながった」（モニター調査；35.7%、企業調査；35.4%）の割合が女性よりも、女性は「新しい知識や技術、経験を得られた」（モニター調査；54.7%、企業調査；58.7%）が男性よりも5～10ポイント高い。

第 2-13 表 ボランティアや社会貢献活動から得られたもの

【モニター調査】ベース：ボランティア経験者

(%)

		総数	かなりあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
人の役に立ち、社会や地域に貢献できた	全体	1577	15.5	53.5	25.0	4.7	1.2
	男性	809	15.8	52.2	25.8	4.9	1.2
	女性	768	15.2	54.9	24.2	4.4	1.2
有用な情報や人脈を得られた	全体	1577	9.7	31.0	34.0	16.0	9.3
	男性	809	10.9	31.8	34.5	15.1	7.8
	女性	768	8.5	30.2	33.5	17.1	10.8
余暇時間を有効に使うことができた	全体	1577	10.5	36.7	34.6	11.9	6.3
	男性	809	9.8	34.1	38.7	12.0	5.4
	女性	768	11.3	39.3	30.3	11.7	7.3
生きがいをもつことができた	全体	1577	8.1	26.4	40.1	16.6	8.9
	男性	809	8.7	26.9	40.7	15.7	8.0
	女性	768	7.6	25.8	39.5	17.4	9.8
健康や体力の増進につながった	全体	1577	6.7	25.9	37.7	19.0	10.8
	男性	809	7.3	28.4	37.8	17.8	8.7
	女性	768	6.0	23.2	37.5	20.3	13.0
知識や技術、経験を活かした	全体	1577	8.6	32.3	34.1	15.7	9.4
	男性	809	8.0	31.9	37.3	14.0	8.8
	女性	768	9.1	32.7	30.7	17.4	10.0
新しい知識や技術、経験を得られた	全体	1577	10.1	39.3	31.6	11.7	7.2
	男性	809	9.4	35.0	37.2	11.6	6.8
	女性	768	10.8	43.9	25.8	11.8	7.7
他者と考えを共有・共感することができた	全体	1577	10.8	41.5	32.4	10.0	5.3
	男性	809	10.8	41.0	33.0	10.5	4.7
	女性	768	10.8	42.1	31.8	9.4	6.0
仕事に役立った	全体	1577	6.2	18.9	37.7	22.3	14.9
	男性	809	6.1	17.2	40.8	22.6	13.3
	女性	768	6.4	20.7	34.4	22.0	16.5

【企業調査】ベース：ボランティア経験者

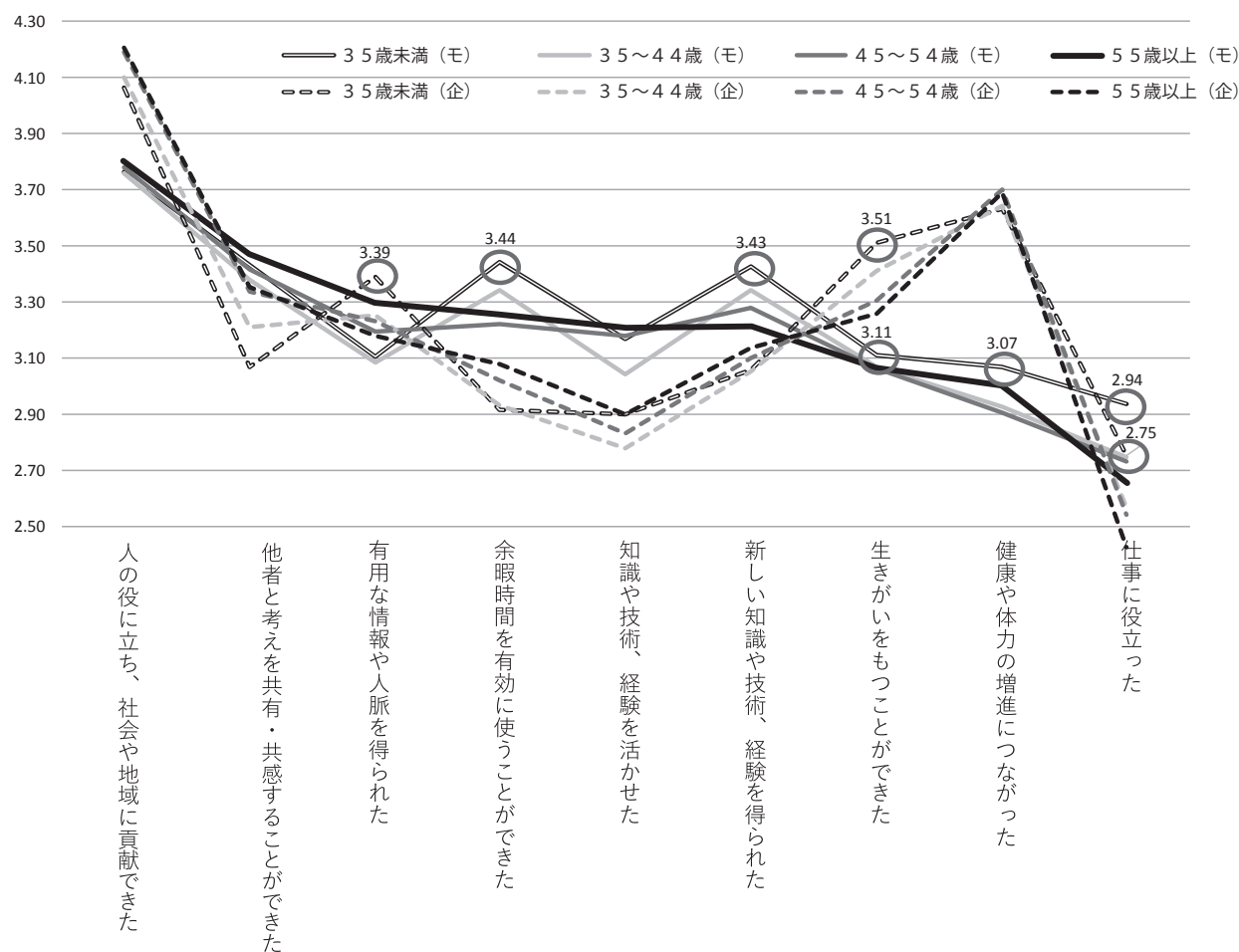
(%)

		総数	かなりあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
人の役に立ち、社会や地域に貢献できた	全体	7249	31.1	54.9	11.1	2.0	0.8
	男性	4475	33.3	52.9	10.7	2.1	0.9
	女性	2774	27.6	58.1	11.6	1.9	0.7
有用な情報や人脈を得られた	全体	7249	14.2	32.6	26.4	15.8	11.0
	男性	4475	14.7	31.6	26.5	15.8	11.3
	女性	2774	13.3	34.2	26.2	15.7	10.6
余暇時間を有効に使うことができた	全体	7249	13.1	36.0	26.2	15.2	9.5
	男性	4475	13.2	34.4	27.1	15.1	10.1
	女性	2774	12.9	38.4	24.8	15.3	8.5
生きがいをもつことができた	全体	7249	9.1	25.3	33.1	19.0	13.4
	男性	4475	10.3	25.5	32.4	18.4	13.4
	女性	2774	7.3	25.1	34.3	19.9	13.5
健康や体力の増進につながった	全体	7249	8.4	23.5	30.6	20.2	17.4
	男性	4475	10.5	24.9	29.3	18.2	17.0
	女性	2774	4.9	21.1	32.6	23.4	18.0
知識や技術、経験を活かせた	全体	7249	10.8	30.8	27.9	16.8	13.7
	男性	4475	11.6	29.0	27.8	17.2	14.4
	女性	2774	9.4	33.7	28.2	16.2	12.4
新しい知識や技術、経験を得られた	全体	7249	15.0	39.6	23.6	12.6	9.2
	男性	4475	14.9	37.2	24.7	13.4	9.9
	女性	2774	15.2	43.5	21.9	11.2	8.1
他者と考えを共有・共感することができた	全体	7249	17.9	48.6	21.1	6.7	5.6
	男性	4475	18.0	47.4	22.0	6.7	5.9
	女性	2774	17.9	50.6	19.7	6.6	5.2
仕事に役立った	全体	7249	5.0	16.5	33.6	22.9	22.0
	男性	4475	5.6	16.4	32.4	22.8	22.8
	女性	2774	4.1	16.5	35.5	23.1	20.8

第 2-5 図は、ボランティアや社会貢献活動から得られたもの 9 項目についての 5 順序尺度の平均値(1～5 の範囲)を、モニター調査と企業調査について年齢階層別にみたものである。図は、モニター調査の 55 歳以上のグループの平均値を基準に、高い値から低い値へと項目を並べ替えている。

モニター調査(実線)と企業調査(点線)は、調査ごとに特徴が似通っていることがわかる。特に企業調査では「人の役に立ち、社会や地域に貢献できた」や、「健康や体力の増進につながった」の値がモニター調査よりもかなり高く、逆に「知識や技術、経験を活かせた」が低い。

第 2-5 図 年齢階層別にみた活動から得られたもの（5 順序尺度の平均値の比較）



年齢階層別にみると、35 歳未満のグループで、平均値の高い項目が多い。企業調査では、「有用な情報や人脈を得られた」(3.39)、「生きがいをもつことができた」(3.51)、「仕事に役立った」(2.75) が他の年齢階層よりも値が高い。モニター調査では、「余暇時間を有効に使うことが出来た」(3.44)、「新しい知識や技術、経験を得られた」(3.43)、「生きがいをもつことができた」(3.11)、「健康や体力の増進につながった」(3.07)、「仕事に役立った」(2.94) が他の年齢階層よりも値が高い。

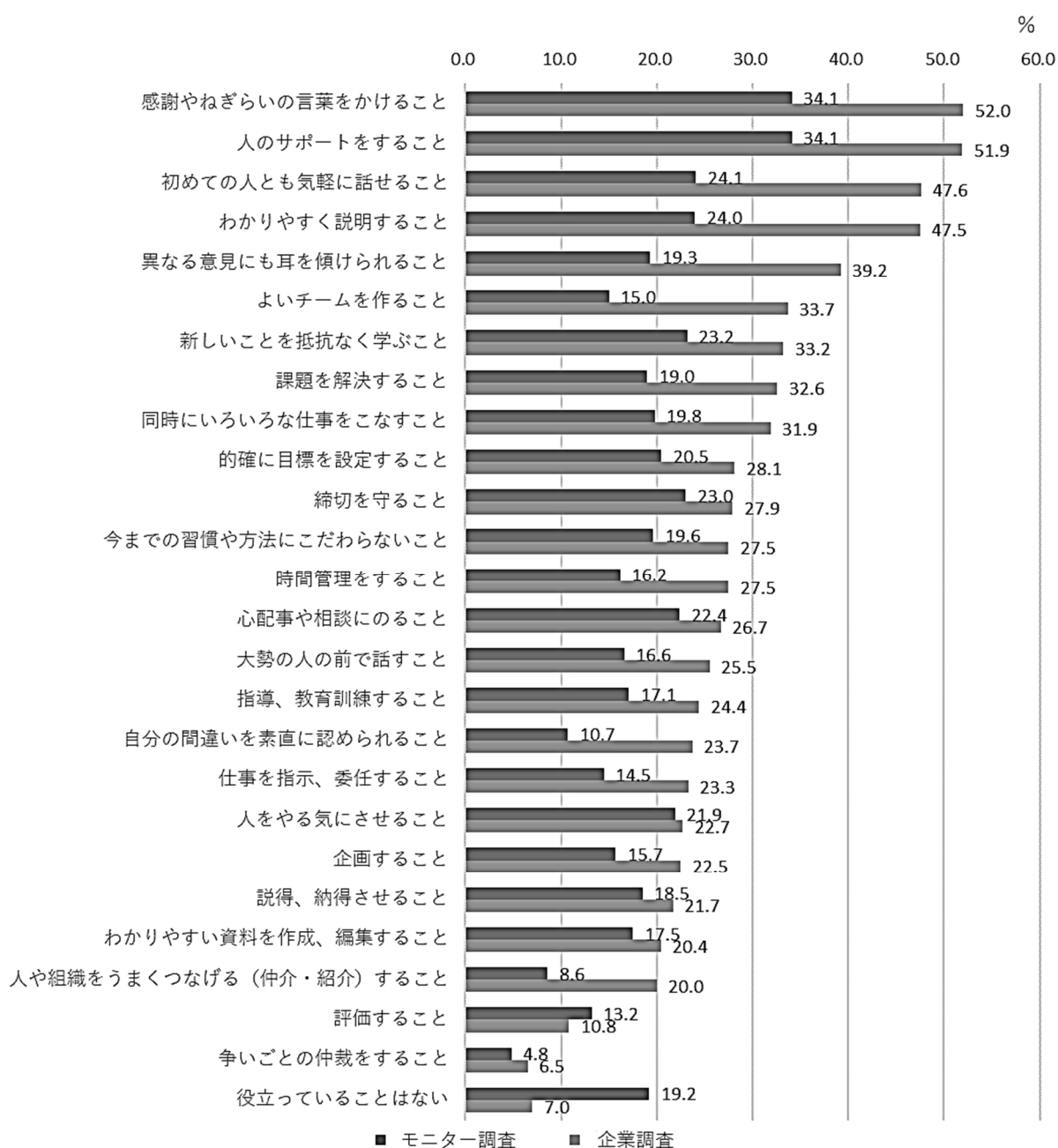
このように、35 歳未満グループがボランティアや社会貢献活動から得られたものに対する評価が高く、また、活動を通じて知識や技術、経験を獲得し、仕事に役立てるといったスキルの循環が一部の企業人の中では実感されているようである。

2. 活動に役立った能力や経験

本調査では、企業人として求められる 26 項目の能力について、得意か苦手かを聞いている（第 4 章参照）。ボランティアや社会貢献活動の経験がある人については、その中からどの能力が役立ったかを聞いている。

第 2-6 図は、役立った能力について、モニター調査と企業調査別に割合が高い順に並べている。両調査ともに、上位に挙げられている項目の傾向は似ている。両調査とも上位 4 項目は、「感謝やねぎらいの言葉をかけること」、「人のサポートをすること」「初めての人とも気軽に話せること」「わかりやすく説明すること」である。

第 2-6 図 ボランティアや社会貢献活動に役立った能力（複数回答）



第5節 ボランティアや社会貢献活動への不満、参加しない理由

1. ボランティアや社会貢献活動への不満

ボランティアや社会貢献活動を経験して、不満に感じたことは何だろうか。第2-14表は、活動経験者に対して活動に際して不満に思ったことについて聞いている。モニター調査、企業調査ともに、「特に不満はない」が半数以上であり、多くの人は特に不満はもっていないようだ。

不満を持った人の中で、最も割合が高い項目は「時間をとられた」（モニター調査；22.8%、企業調査；25.1%）で、その次はかなり割合が減って、「あまり楽しくなかった」（モニター調査；12.7%、7.5%）が続いている。

性別はそれほど差がある項目はない。年齢階層別でみると、モニター調査では「あまり楽しくなかった」は若くなるほど割合が高くなり、逆に「時間がとられた」は年齢階層が高いほど割合も高くなる傾向がみられる。

第2-14表 活動への不満（複数回答）

			(%)					
		総数	あまり楽し くなかつた	お礼の言葉 がなかつた、感謝を 感じなかつた	やりがいを 感じなかつた	団体のやり 方や趣旨に 共感できな かつた	人間関係が うまくいか なかつた	お金がか かつた
モニター調査	全体	1577	12.7	5.3	8.6	5.5	5.1	4.9
性別	男性	809	11.9	6.6	9.1	6.4	5.4	4.7
	女性	768	13.5	3.9	7.9	4.6	4.8	5.1
年齢	35歳未満	533	15.9	5.6	10.9	4.5	5.3	5.4
	35～44歳	375	13.1	6.4	9.1	6.9	5.6	5.3
	45～54歳	366	11.2	5.5	7.1	6.3	4.6	3.8
	55歳以上	303	8.3	3.0	5.6	4.6	5.0	4.6
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	483	12.4	5.8	9.9	7.0	6.4	5.6
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	521	11.1	6.0	7.9	3.6	4.6	4.4
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	373	14.7	4.8	9.4	6.4	4.6	4.3
	神社、寺、教会等	47	19.1	4.3	8.5	6.4	10.6	8.5
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	58	10.3	1.7	8.6	6.9	3.4	3.4
	その他	95	12.6	3.2	2.1	3.2	2.1	5.3
企業調査	全体	7249	7.5	1.9	5.2	4.9	3.1	4.3
性別	男性	4475	8.2	2.1	5.9	4.7	3.2	4.0
	女性	2774	6.3	1.5	4.0	5.2	3.0	4.8
年齢	35歳未満	2197	9.5	1.6	6.6	4.0	1.9	5.7
	35～44歳	1673	6.5	1.9	4.8	5.1	3.1	4.1
	45～54歳	2326	6.3	1.8	4.3	5.5	3.8	3.1
	55歳以上	1053	7.8	2.5	4.6	4.9	4.1	4.1
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	1916	5.0	1.5	3.4	4.2	2.9	7.6
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	2235	10.3	2.1	6.3	5.4	3.2	2.2
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	2165	7.4	2.0	5.8	5.3	3.7	3.5
	神社、寺、教会等	197	10.2	1.5	5.6	5.1	1.0	3.0
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	129	10.1	2.3	8.5	3.1	3.9	3.1
	その他	607	4.0	1.5	3.8	4.1	2.0	4.8

(第2-14表つづき)

(%)

		時間をとられた	自分の能力が十分に認められなかった	気力や体力が続かなかった	家族や職場の理解が得られなかった	その他	特に不満はない(なかった)
モニター調査	全体	22.8	2.0	6.1	2.0	0.6	50.6
性別	男性	23.7	2.3	4.9	2.5	0.4	50.4
	女性	21.9	1.7	7.3	1.6	0.9	50.8
年齢	35歳未満	20.1	2.1	6.8	1.7	0.2	50.5
	35～44歳	21.1	2.1	5.1	3.2	0.8	48.8
	45～54歳	23.5	2.5	6.3	1.9	1.1	50.0
	55歳以上	29.0	1.3	5.9	1.3	0.7	53.8
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	19.0	1.0	7.0	1.2	1.0	50.5
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	24.6	2.1	6.1	3.3	0.4	49.7
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	25.2	2.7	5.4	1.1	0.5	49.3
	神社、寺、教会等	21.3	6.4	2.1	6.4	0.0	51.1
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	24.1	3.4	8.6	3.4	0.0	43.1
	その他	23.2	1.1	4.2	0.0	1.1	65.3
企業調査	全体	25.2	0.7	4.4	1.5	2.1	60.7
性別	男性	25.7	0.7	3.1	1.3	1.5	61.3
	女性	24.5	0.6	6.4	1.8	3.0	59.6
年齢	35歳未満	21.8	0.7	5.1	0.6	1.7	60.4
	35～44歳	26.4	0.6	5.0	2.2	2.7	59.6
	45～54歳	27.3	0.4	3.6	1.7	2.2	60.6
	55歳以上	25.6	1.2	3.5	1.8	1.7	63.2
団体の種類	ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体	16.4	0.6	5.9	1.9	2.9	65.1
	地縁的な活動に関するグループ・団体（町内会、自治会、消防団など）	29.8	0.7	3.7	1.3	1.6	57.6
	学校や幼稚園等の活動に関するグループ・団体（PTA、父母会など）	31.0	0.8	4.0	1.2	1.6	57.0
	神社、寺、教会等	19.3	0.0	3.6	1.5	0.0	67.5
	公的機関（公立の病院、図書館、博物館等）	17.8	1.6	5.4	0.8	0.8	61.2
	その他	18.6	0.5	3.1	2.0	4.3	68.4

活動した団体の種類別に「特に不満はない」に注目すると、「神社、寺、教会等」、「ボランティア、NPO、NGO、市民活動に関するグループ・団体」で比較的割合が高くなっている。特に企業調査では、地縁団体や、PTAや父母会などの団体で「時間をとられた」とする割合が高い。実際には、これらの団体やグループで費やす時間は、前掲第2-8表、第2-9表の期間や日数からみても他の団体やグループと同じかやや少ないが、参加のきっかけが義務的（前掲第2-10表）であることから、自由意志で行う傾向が強い「神社、寺、教会等」やNPOやボランティア団体の活動に比べて、負担感が強くなっていると考えられる。

2. 活動をしてこなかった理由

第2-15表は、ボランティアや社会貢献活動の経験がない人に対して、その理由を聞いている。モニター調査では、「特に理由はない」が32.4%で最も高い。その次に「興味がない・やりたいと思わなかったから」が26.5%、「仕事が忙しく時間がなかったから」が25.8%となっている。企業調査でも上位3つの項目は同じだが、最も割合が高いのは「仕事が忙しく時

間がなかったから」が 36.8%、次に「興味がない・やりたいと思わなかったから」が 27.0%、「特に理由はない」が 23.7%となっている。

第 2-15 表 ボランティアや社会貢献活動をしてこなかった理由（複数回答）

ベース：ボランティア未経験者

(%)

		総数	仕事が忙しく時間がなかったから	家庭、生活（育児・介護）が忙しく時間がなかったから	その他にやりたいことがあったから	どのような活動があるのかわからなかったから	やりたい活動やNPO等がみつからなかったから	金銭的報酬が得られないから
モニター調査	全体	2254	25.8	7.7	10.9	10.9	7.5	7.1
性別	男性	1225	26.3	6.1	11.6	9.6	7.1	7.7
	女性	1029	25.2	9.6	10.1	12.3	7.9	6.3
年齢	35歳未満	577	20.1	4.9	9.9	10.9	4.9	10.2
	35～44歳	625	22.7	8.3	9.8	9.9	6.7	8.0
	45～54歳	634	30.1	7.7	11.7	11.8	9.3	5.2
	55歳以上	418	31.6	10.8	12.9	10.8	9.3	4.1
企業調査	全体	4539	36.8	17.6	20.3	21.6	13.3	5.6
性別	男性	3102	40.9	17.3	22.6	19.4	14.0	6.3
	女性	1437	28.1	18.1	15.5	26.5	11.8	4.0
年齢	35歳未満	1081	19.9	8.6	25.3	20.6	11.5	10.8
	35～44歳	1090	30.2	20.4	19.0	24.9	12.9	4.6
	45～54歳	1541	44.2	21.1	17.9	21.4	13.6	3.4
	55歳以上	827	54.1	19.0	20.2	19.1	15.7	4.1

(%)

		総数	一人で参加するのが嫌、一緒にやる仲間がいない、誘われないから	必要とされる知識や技術がないから	興味がない・やりたいと思わなかったから	特に理由はない	その他
モニター調査	全体	2254	6.0	6.4	26.5	32.4	0.4
性別	男性	1225	4.2	5.6	22.4	37.1	0.2
	女性	1029	8.1	7.4	31.4	26.7	0.7
年齢	35歳未満	577	6.6	3.6	27.9	35.7	0.2
	35～44歳	625	7.5	5.8	28.0	31.8	0.5
	45～54歳	634	5.5	9.3	26.3	28.9	0.5
	55歳以上	418	3.6	6.9	22.5	34.0	0.7
企業調査	全体	4539	11.2	7.6	27.0	23.7	1.7
性別	男性	3102	9.8	6.2	30.5	23.0	1.2
	女性	1437	14.1	10.8	19.4	25.3	2.9
年齢	35歳未満	1081	12.7	4.2	35.8	22.6	1.4
	35～44歳	1090	10.8	7.1	27.1	26.6	1.5
	45～54歳	1541	10.9	8.9	24.1	23.4	1.8
	55歳以上	827	10.2	10.5	20.8	21.9	2.3

男女別で比較的大きな差がある項目は、男性は、「仕事が忙しく時間がなかったから」（企業調査；40.9%）、「その他にやりたいことがあったから」（企業調査；22.6%）、「興味がない・やりたいと思わなかったから」（企業調査；30.5%）、「特に理由はない」（モニター調査；37.1%）で女性よりも割合が高く、女性は、「どのような活動があるのかわからなかったから」（企業調査；26.5%）、「興味がない・やりたいと思わなかったから」（モニター調査；31.4%）が高くなっている。

3. NPO に対するイメージと活動への参加

本調査では、Q26 で自分の会社と NPO に対してのイメージを心理項目で聞いている。この設問は、9 つの対をなす形容詞 AB を用意し、A か B かどちらに近いかを聞くものである。ここでは、モニター調査から、ボランティア経験がある人とない人、あるいは将来的に活動を希望している人と希望していない人では、NPO に対してのイメージがどのように違うのかをみていくことにする（第 2-16 表）。なお、企業調査からもほぼ同様の傾向がみられている。

まず、ボランティア経験の有無との関係を見ると、ボランティア経験が「有る」人に比べて「無い」人は、どの項目においても、「どちらともいえない」とする割合が高くなっており、経験がないだけに具体的なイメージが湧かない状態にあると考えられる。この差が最も大きいのは、「A.社会の役に立っている／B.立ってない」で、「無い」人の「どちらともいえない」の割合が 9.5 ポイント高い。

ボランティア経験が「有る」人は、「無い」人に比べて、次の項目の A（A に近い＋どちらかといえば A に近い）割合が約 9～16 ポイント高い。すなわち、「A.信頼できる／B.警戒すべき」の「A.信頼できる」（15.6 ポイント高）、「A.社会の役に立っている／B.立ってない」の「A.社会の役に立っている」（12.4 ポイント高）、「A.身近／B.遠い」の「A.身近」（12.7 ポイント高）、「A.一般的／B.例外的」の「A.一般的」（12.6 ポイント高）、「A.中立的／B.政治的」の「A.中立的」（9.1 ポイント高）である。逆に、ボランティア経験が「無い」人は、これらの項目では「どちらともいえない」や B（B に近い＋どちらかといえば B に近い）の割合が高くなっている。特に「A. 身近／B. 遠い」の「B. 遠い」では、ボランティア経験の「無い」人が、「有る」人に比べて約 9～16 ポイント高い。このように、ボランティア経験がある人は NPO に対して、信頼できる、社会の役に立っている、身近、中立的といったポジティブなイメージを持っており、これまでボランティア経験がない人は、どちらともイメージが浮かばない、あるいは「遠い」存在だと感じている。

次に、今後の活動参加希望（「今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか」）についてみていこう。参加したいと「思う」人に比べて「思わない」人は、ほとんどの項目で「どちらともいえない」の割合が高くなっている。特に、「A.社会の役に立っている／B.立ってない」（16.8 ポイント）、「A.信頼できる／B.警戒すべき」（10.3 ポイント）で差が大きい。

第 2-16 表 NPO に対するイメージ（モニター調査）

モニター調査

「ボランティアや社会貢献活動を行っている団体（NPO等）」に対して、以下の形容詞では、A、Bどちらに近いか選んでください。

(%)

		総数	Aに近い	どちらかといえ ばAに近い	どちらともい えない	どちらかといえ ばBに近い	Bに近い
Q26B_1 A. 信頼できる／B. 警戒すべき	全体	3831	5.0	20.8	52.8	15.2	6.2
ボランティア経験の有無	有り	1577	7.8	27.2	48.1	12.1	4.8
	無し	2254	3.0	16.4	56.1	17.4	7.1
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	8.7	33.0	46.2	10.2	1.8
	思わない	2455	2.9	14.0	56.5	18.0	8.6
Q26B_2 A. 社会の役に立っている／B. 立ってない	全体	3831	13.5	36.3	42.5	5.5	2.2
ボランティア経験の有無	有り	1577	17.3	39.9	36.9	4.2	1.6
	無し	2254	10.9	33.9	46.4	6.4	2.5
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	18.2	46.0	31.7	3.8	0.4
	思わない	2455	10.9	30.9	48.5	6.5	3.2
Q26B_3 A. 儲かる／B. 損な	全体	3831	2.3	8.2	51.6	25.0	12.9
ボランティア経験の有無	有り	1577	3.0	9.2	48.6	26.1	13.1
	無し	2254	1.9	7.5	53.7	24.2	12.7
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	3.1	10.6	47.6	28.0	10.8
	思わない	2455	2.0	6.8	53.9	23.3	14.1
Q26B_4 A. 身近／B. 遠い	全体	3831	2.8	14.3	52.4	21.3	9.2
ボランティア経験の有無	有り	1577	4.7	19.8	51.4	17.5	6.5
	無し	2254	1.5	10.3	53.1	23.9	11.1
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	4.9	21.9	51.7	18.2	3.4
	思わない	2455	1.6	10.0	52.9	23.0	12.5
Q26B_5 A. 宗教的／B. 世俗的	全体	3831	6.1	18.5	55.8	14.5	5.1
ボランティア経験の有無	有り	1577	6.3	19.3	52.9	15.1	6.3
	無し	2254	5.9	17.9	57.9	14.2	4.2
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	4.6	18.0	55.7	17.0	4.7
	思わない	2455	6.9	18.8	55.9	13.2	5.3
Q26B_6 A. 先進的／B. 伝統的	全体	3831	2.2	11.0	64.2	17.5	5.1
ボランティア経験の有無	有り	1577	3.4	12.5	59.3	18.6	6.2
	無し	2254	1.4	10.0	67.6	16.7	4.3
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	3.6	15.1	60.0	17.5	3.9
	思わない	2455	1.5	8.8	66.5	17.5	5.8
Q26B_7 A. 中立的／B. 政治的	全体	3831	5.2	19.7	55.9	14.4	4.8
ボランティア経験の有無	有り	1577	7.8	22.5	50.8	14.3	4.6
	無し	2254	3.4	17.8	59.4	14.5	4.9
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	7.9	27.3	51.1	11.7	2.0
	思わない	2455	3.7	15.5	58.5	15.9	6.3
Q26B_8 A. 一般的／B. 例外的	全体	3831	4.9	17.9	57.6	15.3	4.2
ボランティア経験の有無	有り	1577	7.7	22.5	53.2	13.5	3.1
	無し	2254	2.9	14.7	60.7	16.6	5.0
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	7.7	25.8	53.6	11.0	1.9
	思わない	2455	3.3	13.5	59.9	17.8	5.5
Q26B_9 A. 趣味的／B. 仕事の	全体	3831	7.0	24.4	55.2	10.1	3.3
ボランティア経験の有無	有り	1577	7.5	28.3	50.8	9.7	3.7
	無し	2254	6.6	21.7	58.3	10.4	3.0
今後、ボランティアや社会貢献活動に参加したいと思うか。	思う	1376	6.9	31.5	51.3	7.9	2.3
	思わない	2455	7.0	20.4	57.4	11.4	3.8

今後活動に参加したいと「思う」人は、「思わない」人に比べて、多くの項目でAの割合が10ポイント以上高くなっている。すなわち、「A.信頼できる／B.警戒すべき」の「A.信頼できる」(24.8ポイント高)、「A.社会の役に立っている／B.立ってない」の「A.社会の役に立っている」(22.4ポイント高)、「A.身近／B.遠い」の「A.身近」(15.2ポイント高)、「A.一般的／B.例外的」の「A.一般的」(16.7ポイント高)、「A.中立的／B.政治的」の「A.中立的」(16.0ポイント高)、「A.趣味的／B.仕事の」の「A.趣味的」(11.0ポイント高)である。参加したいと「思わない人」は、Bの割合が高く、特に、「A.信頼できる／B.警戒すべき」の「B.警戒すべき」(14.6ポイント高)、「A.身近／B.遠い」の「B.遠い」(13.9ポイント高)、「A.一般的／B.例外的」の「B.例外的」(10.4ポイント高)の項目で10ポイント以上の差がある。このように、NPOに対してネガティブなイメージを持つ人は、今後活動に参加したいと「思わない」傾向がみられる。

第6節 ボランティアや社会貢献活動の参加希望とその理由

1. ボランティアや社会貢献活動の参加希望

今後ボランティアや社会貢献活動に参加したいと「思う」人の割合は、モニター調査では35.9%、企業調査では59.0%とかなり開きがある(第2-17表)。男女別でみると、両調査とも女性の方が「思う」割合が少し高い。年齢階層別にみると、年齢が高くなるほど「思う」割合が高くなっていく傾向がみえる。子供の有無別でみると、子供「有り」のグループの方が「思う」割合が高くなっている。

第2-17表 ボランティアや社会貢献活動への参加希望

モニター調査		(%)	
		総数	思う 思わない
	全体	3831	35.9 64.1
性別	男性	2034	34.6 65.4
	女性	1797	37.5 62.5
年齢	35歳未満	1110	33.3 66.7
	35～44歳	1000	33.0 67.0
	45～54歳	1000	37.5 62.5
	55歳以上	721	41.7 58.3
子供の有無	有り	1434	39.7 60.3
	無し	2397	33.7 66.3

企業調査		(%)		
		総数	思う	思わない
全体		11788	59.0	41.0
性別	男性	7577	57.0	43.0
	女性	4211	62.6	37.4
年齢	35歳未満	3278	48.4	51.6
	35～44歳	2763	58.6	41.4
	45～54歳	3867	66.2	33.8
	55歳以上	1880	63.3	36.7
子供の有無	有り	5512	62.8	37.2
	無し	6276	55.7	44.3

第 2-18 表は、モニター調査から、最終学歴と世帯年収および本人年収と、活動参加希望の有無の関係をみている。

最終学歴をみると、参加希望者（「思う」）の割合は学歴が高くなると高くなる。世帯年収についてみると、2000 万円以上の階層で「思う」の割合は 54.4%で、他の階層に比べて高い。800 万円未満のグループでは、30%台の前半、800～1000 万円未満から 1500～2000 万円未満では 30%台後半と、徐々に割合が高くなる傾向がある。本人年収に関してみると、400 万円未満のグループでは約 32%、400～800 万円未満のグループでは約 36%、800 万円以上のグループでは約 4 割と、本人年収が高くなるほど徐々に活動参加希望の割合が高くなる関係性がみられる。

第 2-18 表 最終学歴、年収別にみた活動参加希望割合（モニター調査）

モニター調査		(%)		
		総数	思う	思わない
全体		3831	35.9	64.1
最終学歴	中学・高等学校	568	32.9	67.1
	短期大学、高等専門学校、各種学校、専門学校	584	34.6	65.4
	大学・大学院	2679	36.8	63.2
世帯年収	400万円未満	460	31.3	68.7
	400～600万円未満	809	34.4	65.6
	600～800万円未満	771	33.2	66.8
	800～1,000万円未満	740	38.2	61.8
	1,000～1,500万円未満	768	37.5	62.5
	1,500～2,000万円未満	180	39.4	60.6
	2,000万円以上	103	54.4	45.6
あなた自身の年収 (本人年収)	300万円未満	474	31.9	68.1
	300～400万円未満	589	31.7	68.3
	400～600万円未満	1170	36.1	63.9
	600～800万円未満	729	36.2	63.8
	800～1,000万円未満	466	39.9	60.1
	1,000万円以上	403	41.2	58.8

今後ボランティアや社会貢献活動への参加を希望している人は、どのような経験をしている人が多いのだろうか。第 2-19 表は、ボランティアの経験の有無、寄付の経験の有無、介護経験の有無について、将来的な活動参加希望の有無との関係をみている。

ボランティア経験が「有る」人は、ボランティア経験の「無い」人に比べて、活動希望（「思う」）の割合が 20～30 ポイント高い（モニター調査；54.0%、企業調査；67.1%）。寄付の有無についてみると、「有り」のグループで、活動参加希望の割合が寄付「無し」よりも 20 ポイント程度高くなっている。介護経験についても、「有り」のグループが「無し」のグループに比べて、活動参加希望の割合がモニター調査では 20 ポイント、企業調査では 8 ポイント高くなっている。

前掲の第 2-11 表、第 2-12 表では、身近に活動している人の存在や、NPO 等に助けてもらった経験と、将来的な活動参加の希望をみているが、この中では、自分の身近に活動している人や、過去に NPO 等に助けてもらった経験がある人の方が、将来的な活動参加につながる可能性がみえている。

このように、子育てや介護経験や、ボランティアや寄付の経験は、将来的にボランティアや社会貢献活動に参加しようとする思いを高める作用がある。子育てや介護経験は、自分が苦労したことや助けてもらった経験を逆に次の世代に返そうという思いにつながるだろうし、ボランティアや寄付の経験がある人は、すでにボランティアや社会貢献活動に親和性があり、活動に対する精神的なハードルは低いと考えられる。一方で、これらの経験がない人も、モニター調査では 2～3 割、企業調査では 5 割の人が、将来的にボランティアや社会貢献活動をやりたいと前向きに思っている。

前掲第 2-16 表での、ボランティア経験がある人の NPO 等に対するイメージがポジティブであるということ、さらに今後活動を希望する人もポジティブなイメージを持つことということを踏まえると、ボランティア経験がない人に対しては、なんらかのきっかけを作ってまずは経験してみることで、精神的ハードルが下がり、次の活動へつながっていくことが予想される。

第 2-19 表 活動への参加希望と活動経験等との関係

モニター調査		(%)	
	総数	思う	思わない
全体	3831	35.9	64.1
ボランティア経験の有無	有り	54.0	46.0
	無し	23.2	76.8
寄付の有無	有り	54.3	45.7
	無し	30.5	69.5
	わからない	25.8	74.2
介護経験の有無	有り	52.9	47.1
	無し	32.0	68.0

企業調査		(%)	
		総数	思う 思わない
全体		11788	59.0 41.0
ボランティア経験の有無	有り	7249	67.1 32.9
	無し	4539	46.2 53.8
寄附の有無	有り	4400	70.3 29.7
	無し	6958	52.1 47.9
	わからない	430	54.4 45.6
介護経験の有無	有り	2697	65.8 34.2
	無し	9091	57.0 43.0

2. ボランティアや社会貢献活動希望者の参加動機

ボランティアや社会貢献活動への参加を希望する人に、その参加理由を聞いている（第2-20表）。設問は、それぞれの項目について「かなりあてはまる」から「全くあてはまらない」の5段階を選択する形になっている。「あてはまる」（かなり＋やや）の割合が高い上位2項目は、モニター調査と企業調査で同じ項目、「人の役に立ち、社会や地域に貢献したいから」（モニター調査；82.8%、企業調査；91.1%）、「生きがいをもつことができるから」（モニター調査；69.6%、企業調査；67.7%）となった。第3位は、モニター調査では、「余暇時間を有効に使うことができるから」（63.8%、企業調査；60.0%）、企業調査では、「新しい知識や技術、経験を得られるから」（61.9%、モニター調査；59.8%）だった。

男女別にみると、モニター調査では、女性の方が「生きがいをもつことができるから」（73.1%、男性；66.2%）、「新しい知識や技術、経験を得られるから」（65.6%、男性；54.3%）、「収入を得たいから」（38.9%、男性；33.5%）の項目で「あてはまる」（かなり＋やや）の割合が5ポイント以上高く、男性が目立って高い項目はない。企業調査では、男性の方が「生きがいをもつことができるから」（70.0%、女性 64.1%）、「知識や技術、経験を活かせるから」（53.5%、女性 46.7%）の項目で高く、女性は「新しい知識や技術、経験を得られるから」（65.3%、男性 59.8%）で割合が高くなっている。

第 2-20 表 活動参加希望者の参加動機

【モニター調査】ベース：ボランティア、社会貢献活動参加意向者

(%)

		総数	かなりあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
人の役に立ち、社会や地域に貢献したいから	全体	1376	18.1	64.7	15.3	1.5	0.4
	男性	703	17.6	65.3	15.4	1.4	0.3
	女性	673	18.6	64.0	15.3	1.6	0.4
有用な情報や人脈を得られるから	全体	1376	11.0	40.6	34.6	11.3	2.5
	男性	703	10.4	41.0	35.4	10.7	2.6
	女性	673	11.6	40.1	33.7	12.0	2.5
余暇時間を有効に使うことができるから	全体	1376	12.2	51.6	27.8	6.6	1.8
	男性	703	11.7	50.5	29.7	6.5	1.6
	女性	673	12.8	52.7	25.7	6.7	2.1
生きがいをもつことができるから	全体	1376	15.3	54.3	25.4	4.3	0.8
	男性	703	13.4	52.8	27.6	5.1	1.1
	女性	673	17.2	55.9	23.0	3.4	0.4
健康や体力の増進につながるから	全体	1376	11.7	47.7	30.7	7.8	2.1
	男性	703	11.1	46.8	32.6	8.0	1.6
	女性	673	12.3	48.6	28.7	7.7	2.7
知識や技術、経験を活かせるから	全体	1376	11.5	45.2	34.4	7.4	1.5
	男性	703	11.1	45.4	34.9	7.3	1.4
	女性	673	11.9	45.0	33.9	7.6	1.6
新しい知識や技術、経験を得られるから	全体	1376	13.0	46.8	31.5	7.1	1.6
	男性	703	11.5	42.8	34.7	9.5	1.4
	女性	673	14.6	51.0	28.1	4.6	1.8
他者と考えを共有・共感することができるから	全体	1376	11.2	44.7	35.8	6.3	2.0
	男性	703	10.4	43.2	38.5	6.0	1.8
	女性	673	12.0	46.2	32.8	6.7	2.2
仕事に役立つ能力を得たいから	全体	1376	10.0	29.9	39.1	16.4	4.5
	男性	703	9.4	28.3	40.8	17.9	3.6
	女性	673	10.7	31.6	37.3	14.9	5.5
収入を得たいから	全体	1376	9.8	26.4	37.0	18.1	8.7
	男性	703	8.5	25.0	37.6	19.6	9.2
	女性	673	11.1	27.8	36.4	16.5	8.2

【企業調査】ベース：ボランティア、社会貢献活動参加意向者

(%)

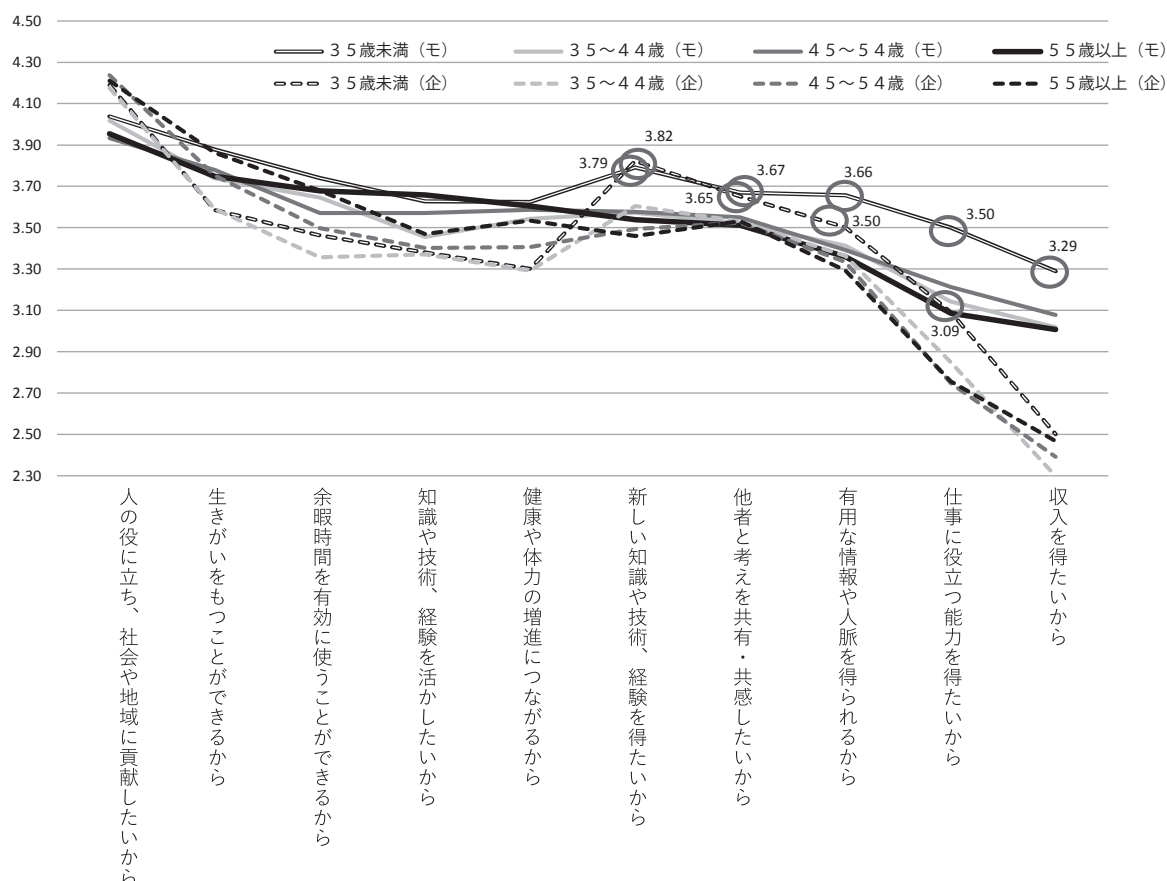
		総数	かなりあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
人の役に立ち、社会や地域に貢献したいから	全体	6956	31.4	59.7	7.3	1.4	0.2
	男性	4321	34.5	57.3	6.7	1.3	0.3
	女性	2635	26.4	63.8	8.2	1.5	0.2
有用な情報や人脈を得られるから	全体	6956	10.8	39.8	29.6	15.4	4.4
	男性	4321	11.6	38.2	30.4	15.2	4.6
	女性	2635	9.4	42.5	28.3	15.9	3.9
余暇時間を有効に使うことができるから	全体	6956	11.4	48.6	22.8	12.1	5.2
	男性	4321	12.1	48.7	21.8	11.9	5.6
	女性	2635	10.2	48.4	24.4	12.4	4.6
生きがいをもつことができるから	全体	6956	15.4	52.3	21.6	7.8	2.9
	男性	4321	17.1	52.9	20.2	6.9	3.0
	女性	2635	12.7	51.4	23.8	9.3	2.7
健康や体力の増進につながるから	全体	6956	9.3	43.7	27.8	13.9	5.3
	男性	4321	10.6	42.7	27.6	13.6	5.5
	女性	2635	7.1	45.3	28.1	14.5	5.0
知識や技術、経験を活かせるから	全体	6956	10.3	40.7	31.9	13.2	3.9
	男性	4321	11.8	41.7	30.2	12.2	4.0
	女性	2635	7.8	38.9	34.6	14.8	3.9
新しい知識や技術、経験を得られるから	全体	6956	13.4	48.5	25.0	9.9	3.2
	男性	4321	13.4	46.4	26.0	10.6	3.7
	女性	2635	13.4	51.9	23.3	8.8	2.5
他者と考えを共有・共感することができるから	全体	6956	11.7	47.8	27.9	9.7	3.0
	男性	4321	12.1	45.9	29.3	9.6	3.1
	女性	2635	10.9	51.0	25.5	9.8	2.8
仕事に役立つ能力を得たいから	全体	6956	5.2	20.9	38.8	23.9	11.2
	男性	4321	5.6	19.9	38.4	24.0	12.2
	女性	2635	4.7	22.7	39.4	23.7	9.5
収入を得たいから	全体	6956	3.5	12.8	31.1	26.3	26.3
	男性	4321	3.3	12.1	30.8	26.4	27.4
	女性	2635	3.8	13.8	31.6	26.3	24.6

第 2-7 図は、ボランティア参加を希望する理由の 10 項目についての 5 順序尺度の平均値（1～5 の範囲）を、モニター調査と企業調査について年齢階層別にみたものである。モニター調査の 55 歳以上のグループの平均値を基準に、高い値から低い値へと項目を並べ替えている。

平均値が最も高いのは、「人の役に立ち、社会や地域に貢献したいから」であり、モニター調査と企業調査、年齢階層での差は小さい。年齢階層別にみて特徴的なのは、35 歳未満のグループで、「新しい知識や技術、経験を得たいから」（モニター調査；3.79、企業調査；3.82）、「他者と考えを共有・共感したいから」（モニター調査；3.67、企業調査；3.65）、「有用な情

報や人脈を得られるから」(モニター調査；3.66、企業調査；3.50)、「仕事に役立つ能力を得たいから」(モニター調査；3.50、企業調査；3.09)の項目での値が、他の年齢階層に比べて極めて高かったことである。これは、企業調査、モニター調査両方に共通してみられている。

第 2-7 図 ボランティア活動希望理由の平均値比較（年齢階層別、調査別）



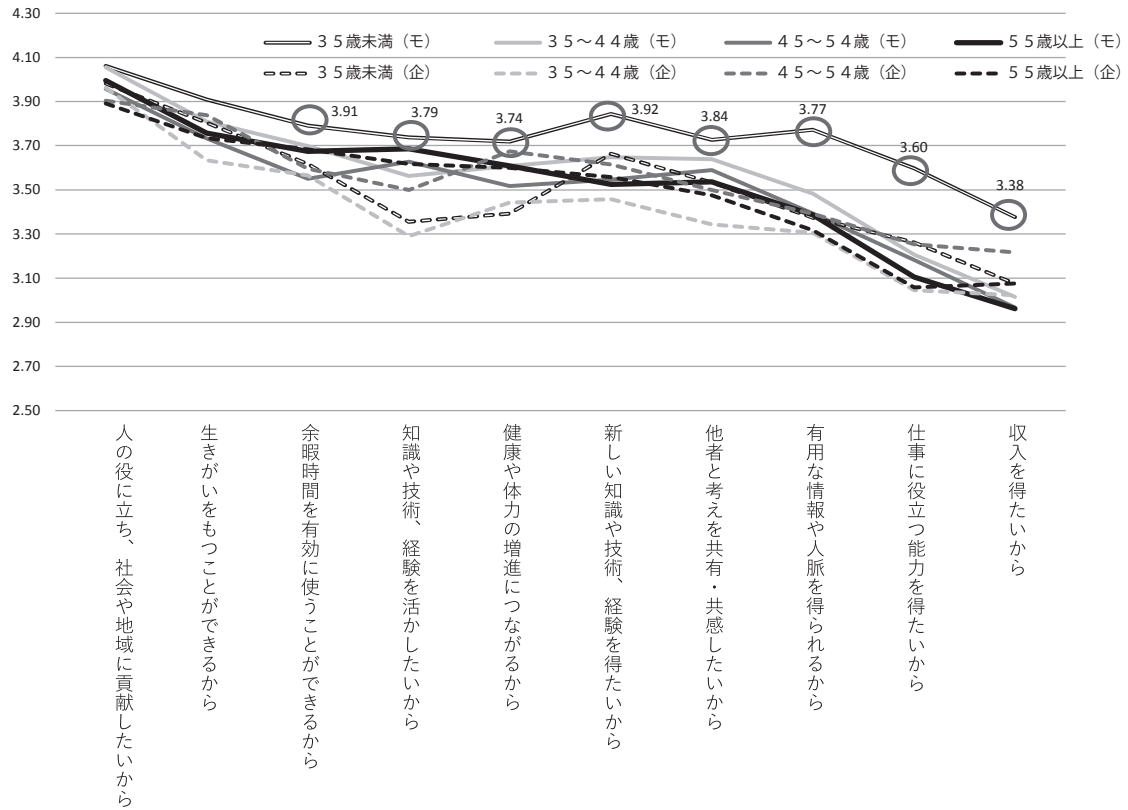
それでは、ボランティア経験が有る人と無い人では、求めるものやその思いの強さは異なってくるのだろうか。第 2-8 図はボランティア経験が有る人と無い人に分けて、それぞれの調査別で平均値を比較している。実線が、ボランティア経験が有る人の値を表しているが、比較の実線の方が高いことがわかる。中でも、モニター調査の 35 歳未満グループで、ボランティア経験が有る人の平均値は、ほとんどの項目で際だって高い。企業調査でも、同様のグループでの「新しい知識や技術、経験を得たいから」、「他者と考えを共有・共感したいから」、「有用な情報や人脈を得られるから」、「仕事に役立つ能力を得たいから」については際立っている。

このように、35 歳未満グループについては、今後ボランティアや社会貢献活動に参加する理由として、活動を通じて知識や技術、経験、人脈など、仕事に役立つ能力を獲得したいという、パラレルキャリアに対する思いが強く表れる結果となった。

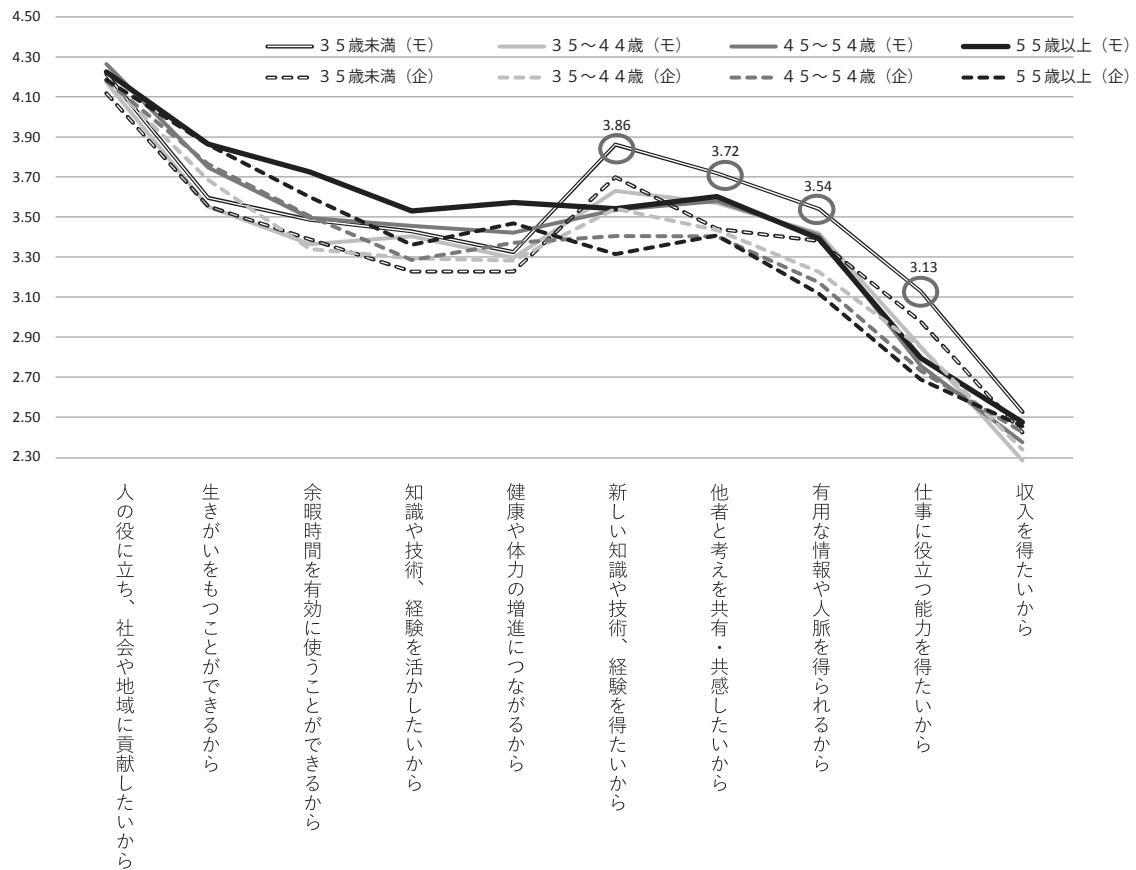
第 2-8 図 ボランティア活動希望理由の平均値比較

(活動経験の有無別、年齢階層別、上図；モニター調査、下図；企業調査)

モニター調査

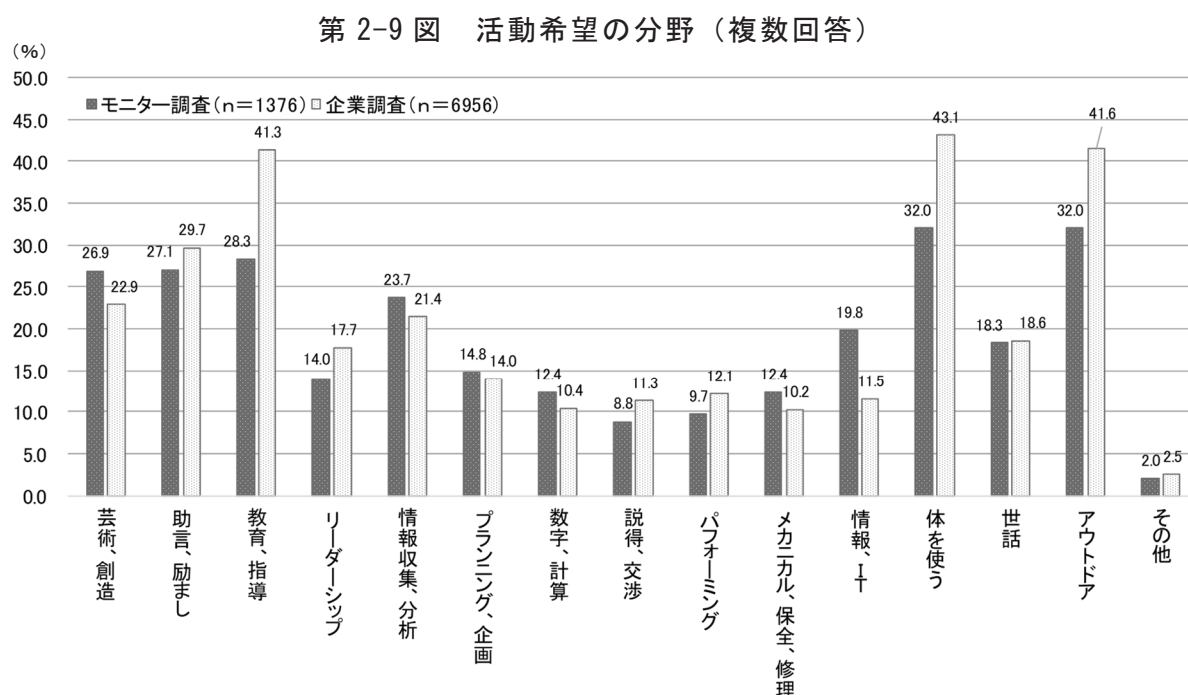


企業調査



3. ボランティアや社会貢献活動の希望分野

ボランティアや社会貢献活動への参加を希望する人に、参加したい活動分野を聞いた（第2-9図）。モニター調査、企業調査ともに希望分野の上位3つは同じである。「体を使う」（モニター調査；43.1%、企業調査；32.0%）、「アウトドア」（モニター調査；41.6%、企業調査；32.0%）、「教育、指導」（モニター調査；41.3%、企業調査；28.3%）である。



参加したい活動分野について、男女別、年齢階層別に傾向をみたのが第2-21表である。

男女別にみると、モニター調査、企業調査共に男性の方が5ポイント以上高い項目は「リーダーシップ」（モニター調査；17.5%、企業調査；24.0%）、「プランニング、企画」（モニター調査；17.5%、企業調査；17.6%）、「アウトドア」（モニター調査；37.1%、企業調査；44.3%）、この他、どちらかの調査で男性の方が高かった項目は、「教育、指導」（企業調査；47.5%）、「説得、交渉」（企業調査；14.6%）、「情報、IT」（モニター調査；24.6%）であった。

一方、モニター調査、企業調査共に女性の方が5ポイント以上高い項目は、「芸術、創造」（モニター調査；30.6%、企業調査；28.8%）、「助言、励まし」（モニター調査；33.1%、企業調査；37.5%）、「世話」（モニター調査；22.9%、企業調査；26.4%）である。この他、「パフォーミング」は企業調査で15.8%と6ポイント程度高い傾向がみられている。

年齢階層別に希望の活動分野をみると、年齢階層が上がると割合が高くなる傾向にあるのは両調査ともに「情報収集、分析」、「アウトドア」で、どちらかの調査で割合が高いのは「情報、IT」（モニター調査のみ）、「助言・励まし」（企業調査のみ）であった。年齢階層が若い層で割合が高い項目は少なく、「芸術、創造」で「35歳未満」の割合が他の年齢階層に比べて高くなっていた。

第 2-21 表 活動希望の分野（男女別、年齢階層別、複数回答）

ベース：ボランティア、社会貢献活動参加意向者

(%)

		総数	芸術、創造	助言、励まし	教育、指導	リーダーシップ	情報収集、分析	プランニング、企画	数字、計算
モニター調査	全体	1376	26.9	27.1	28.3	14.0	23.7	14.8	12.4
	男性	703	23.3	21.3	30.6	17.5	25.6	17.5	13.2
	女性	673	30.6	33.1	26.0	10.4	21.7	11.9	11.4
	35歳未満	370	31.9	27.6	28.1	16.5	18.1	15.7	13.8
	35～44歳	330	27.0	30.6	28.8	12.7	25.2	14.2	13.9
	45～54歳	375	22.7	24.5	27.2	11.7	25.6	11.2	12.5
	55歳以上	301	25.9	25.9	29.6	15.3	26.6	18.6	8.6
企業調査	全体	6956	22.9	29.7	41.3	17.7	21.4	14.0	10.4
	男性	4321	19.4	25.0	47.5	24.0	23.2	17.6	12.1
	女性	2635	28.8	37.5	31.1	7.2	18.3	8.1	7.6
	35歳未満	1586	27.6	28.5	43.5	18.8	19.5	14.8	11.4
	35～44歳	1620	23.0	28.8	40.1	15.8	20.0	14.0	9.8
	45～54歳	2560	19.8	30.0	41.3	18.0	22.3	13.4	10.5
	55歳以上	1190	23.3	32.2	40.2	17.9	23.9	14.2	9.3

(表続き)

(%)

		説得、交渉	パフォーマンス	メカニカル、保全、修理	情報、IT	体を使う	世話	アウトドア	その他
モニター調査	全体	8.8	9.7	12.4	19.8	32.0	18.3	32.0	2.0
	男性	10.5	8.1	14.5	24.6	33.7	13.9	37.1	1.3
	女性	7.0	11.4	10.3	14.7	30.2	22.9	26.7	2.8
	35歳未満	10.8	11.1	11.9	15.9	34.3	21.1	27.3	1.1
	35～44歳	6.7	10.0	12.4	17.9	32.7	17.3	32.1	2.1
	45～54歳	7.7	7.7	13.3	19.2	29.9	17.3	31.5	2.7
	55歳以上	10.0	10.3	12.0	27.2	30.9	17.3	38.5	2.3
企業調査	全体	11.3	12.1	10.2	11.5	43.1	18.6	41.6	2.5
	男性	14.6	9.9	11.4	12.0	43.9	13.8	44.3	2.3
	女性	5.9	15.8	8.2	10.7	41.8	26.4	37.3	2.8
	35歳未満	13.1	13.5	10.8	12.9	44.2	17.3	36.2	1.5
	35～44歳	10.4	11.3	11.8	13.7	45.6	19.4	40.3	2.7
	45～54歳	11.4	11.1	9.6	10.7	44.3	18.3	44.3	2.5
	55歳以上	10.0	13.6	8.3	8.7	35.9	19.7	45.1	3.4

第 2-22 表は、希望する活動分野について、調査対象企業別にみたものである。希望分野の上位 3 つは「体を使う」、「アウトドア」、「教育、指導」であるが、それぞれの企業によって順位は異なっている。1 位と 3 位の割合は、E 社を除く企業では割合に差がみられる。企業でボランティアや社会貢献活動を奨励するのであれば、自分の企業ではどのような活動分野をやってみたいという希望があるのか、親和性を調べて実施した方が社員は乗ってきやすいかもしれない。

第 2-22 表 調査対象企業別にみた活動希望の分野

	1 位	2 位	3 位
A社	教育、指導 53.4%	体を使う 45.4%	アウトドア 41.7%
B社	体を使う 43.1%	教育、指導 40.0%	アウトドア 36.4%
C社	体を使う 42.2%	アウトドア 40.0%	教育、指導 34.5%
D社	アウトドア 47.8%	体を使う 41.4%	教育、指導 39.0%
E社	体を使う 43.9%	アウトドア 43.4%	教育、指導 41.2%

4. ボランティアや社会貢献活動希望者の参加時期

ボランティアや社会貢献活動を希望する人について、いつの時期から活動を始めを考えているのだろうか。第 2-23 表は男女別、年齢階層別に活動参加の希望時期についてみている。モニター調査、企業調査ともに、全体では、時期は「特に決めていない」が 3 分の 1 以上を占めている。次に「数年のうちに」の割合が高い。

男女別にみると、「特に決めていない」の割合が両調査ともに女性の方が割合が 9 ポイント程度高くなっている。

年齢階層別にみると、「35 歳未満」は、「数年のうちに」と「特に決めていない」の割合が高い。定年退職が視野に入ってくる「45～54 歳」は、「定年退職前から、定年退職が近づいたら」（企業調査；19.6%）が高く、定年退職が間近な「55 歳以上」は「再雇用期間終了後」（モニター調査；13.6%、企業調査；19.7%）の割合が高い。また、45 歳以上の階層では「すでに活動している」割合が年下の階層に比べて高くなっている。

このことから、35 歳未満の若い階層は、機会があれば活動参加しようと考えている人が比較的多く、パラレルキャリアも視野に入っている可能性がある。45～54 歳は定年退職前、55 歳以上では再雇用終了後を機に参加したいと考えており、就業の区切りを待つ姿勢がみられ、パラレルで活動するイメージを持つ人は少なそうである。

第 2-23 表 活動参加を希望する時期（男女別、年齢階層別）

ベース：ボランティア、社会貢献活動参加意向者

(%)

		総数	今すぐ	数年のうちに	定年退職前 から定年退 職が近づい たら	再雇用期間 中	再雇用期間 終了後	特に決めて いない	すでに活動 している	その他
モニター 調査	全体	1376	9.4	22.2	16.6	4.9	5.6	35.2	5.7	0.4
	性別 男性	703	10.4	21.8	16.4	6.0	8.1	31.0	6.1	0.3
	性別 女性	673	8.3	22.6	16.9	3.7	3.0	39.7	5.3	0.4
	年齢 35歳未満	370	9.7	24.9	15.9	5.1	2.2	38.9	3.0	0.3
	年齢 35～44歳	330	10.9	22.4	17.0	4.2	2.4	37.6	4.8	0.6
	年齢 45～54歳	375	10.9	23.2	17.1	2.9	5.3	32.3	8.0	0.3
	年齢 55歳以上	301	5.3	17.3	16.6	7.6	13.6	31.9	7.3	0.3
企業調査	全体	6956	7.9	20.0	15.4	3.4	5.5	38.3	8.6	0.9
	性別 男性	4321	7.9	20.0	16.3	4.0	7.2	34.7	9.0	0.7
	性別 女性	2635	7.9	19.8	13.9	2.3	2.8	44.1	7.9	1.3
	年齢 35歳未満	1586	9.3	26.4	11.7	0.8	0.8	46.0	4.4	0.7
	年齢 35～44歳	1620	7.5	20.1	17.0	2.0	1.9	40.9	9.0	1.7
	年齢 45～54歳	2560	8.0	17.5	19.6	4.6	4.3	35.0	10.3	0.7
	年齢 55歳以上	1190	6.3	16.6	9.2	6.1	19.7	31.5	10.2	0.5